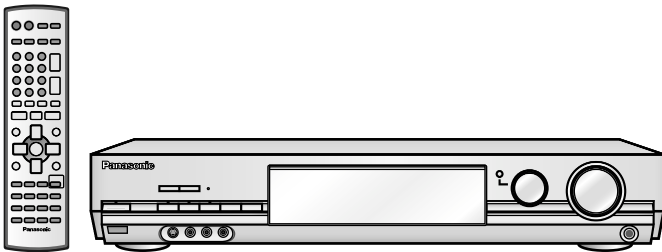
Panasonic®



取扱説明書
AV コントロールアンプ
品番 **SA-XR70**

もくじ



このたびは、AV コントロールアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  特に「安全上のご注意」（2 ～ 3 ページ）はご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
  お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

上手に使って上手に節電

HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

確認 と 準備

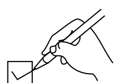
楽しむ

ご参考

本機はフルデジタルアンプです

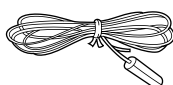
- 本機ではデジタル信号を、入力から最終増幅回路に至るまで完全にデジタル処理します。そのため、周波数に依存しない広帯域の再生を実現しています。また、VGDA（バリアブル・ゲイン・デジタル・アンプ）技術により、実際に使用される音量域での信号対雑音比（S／N 比）を改善し、ノイズの少ない、クリアで原音に近い再生を可能にしています。
- デジタルアンプは無駄な熱損失が少ない、地球環境に配慮したアンプです。

付属品の確認

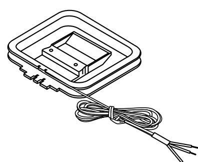


接続の前に、まず付属品を確認してください。

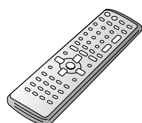
- □ FM 簡易型アンテナ（1 本）【RSA0007-L】



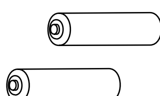
- □ AM ループアンテナ（1 本）【RSA0037】



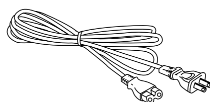
- □ リモコン（1 コ）【EUR7722KG0】



- □ リモコン用乾電池（単 3 形：2 コ）



- □ 電源コード（1 本）【RJA0050-K】



お願い

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は買い替え時の品番です。（2004 年 8 月現在のものです。）
- 付属の電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

「DTS」、「DTS-ES」、「Neo:6」および「DTS 96/24」は DTS 社の商標です。

HDMI 、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

 **警告**	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 **注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）**

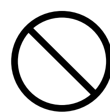
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

 警告

電源コードについて

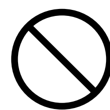
電源コード・プラグを破損するようなことはしない

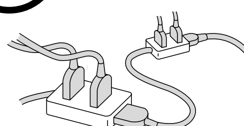
［傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。］



- 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- 抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない

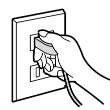




- たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



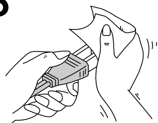


- 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠ 警告

電源コードについて

電源プラグのほこり等は定期的にとる

- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。
  電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

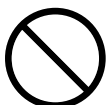
ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない


ぬれ手禁止

- 感電の原因になります。

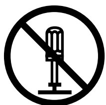
ご使用について

機器内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたり濡らしたりしない



- ショートや発熱により火災や感電の原因になります。
- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

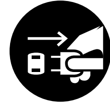
分解、改造しない


分解禁止

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

もし異常が起こったら

異常があったときは電源プラグを抜く

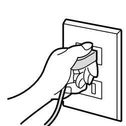
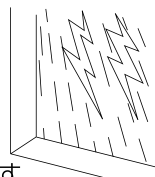

電源プラグを抜く

- 機器内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
- 煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

雷について

雷が鳴ったら、アンテナ線や機器、電源プラグに触れない


接触禁止

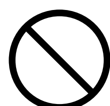
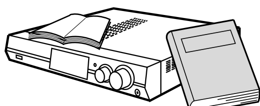



- 感電の恐れがあります。

⚠ 注意

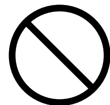
設置・接続について

放熱を妨げない

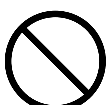
- 内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

不安定な場所に設置しない



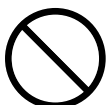
- 上に大きなもの、重いものを載せない
- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない



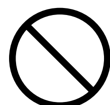
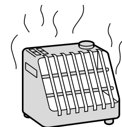
- 電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

屋外アンテナの設置•工事は自分でしない



- 強風でアンテナが倒れた場合に、感電やけがの原因になることがあります。
- 設置・工事は販売店にご相談ください。

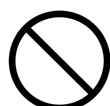
異常に温度が高くなるところに置かない

- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

電池について

電池は誤った使い方をしない

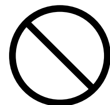


- ⊕と⊖は逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使用しない
- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体、火の中へ入れたりしない
- ネックレスなどの金属物といっしょにしない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない
- 被覆のはがれた電池は使用しない

- 長時間使用しないときは、取り出しておいてください。
- 取り扱いを誤ると、電池の液もれにより、火災や周囲汚損の原因になります。
- 万一液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
- 液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

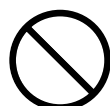
ご使用について

コードを接続した状態で移動しない



- 接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。
- また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない



- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

各部のなまえ

本体

6.1CH DECODING、BASS SYNTHESIZER、MULTI-SOURCE RE-MASTER
音質・音場効果ボタン
(➡ 17、20 ページ)

BI-AMP
BI-AMP ランプ
● BI-AMP 機能が働くと点灯します。(➡ 21 ページ)

SPEAKERS A、B、BI-WIRE
フロントスピーカー選択ボタン
(➡ 15、16、21 ページ)

⏻、POWER ⏻/I
通電ランプ、電源ボタン
●電源コードを接続するとランプが点灯します。
(➡ 14、16 ページ)

リモコン受光部
(➡ 右ページ)

VCR 2
映像機器第 2 入力端子
(➡ 11 ページ)

TUNE、∨、∧
選局 ボタン
(➡ 18、19 ページ)

マルチデコーダーランプ
入力ソース(音源)の信号やデコード形式により次のランプが点灯します。

AAC：	AAC ソース(BS デジタル放送など)を再生しているとき
DD DIGITAL：	ドルビーデジタルソースを再生しているとき
DD EX/PLⅡx：	ドルビーデジタルサラウンド EX ソースを再生しているとき または、ドルビープロロジック Ⅱx デコーダーを使用しているとき
DD PLⅡ：	ドルビープロロジック Ⅱ デコーダーを使用しているとき
DTS 96/24：	DTS 96/24 ソースを再生しているとき
DTS-ES：	DTS-ES のディスクリートやマトリックスソースを再生しているとき
DTS：	DTS ソースを再生しているとき
DTS NEO:6：	DTS NEO:6 マトリックスデコーダーを使用しているとき

VOLUME
音量調整つまみ (➡ 16 ページ)

PHONES
ヘッドホン端子 (➡ 23 ページ)

INPUT SELECTOR
入力ソース切り換えつまみ、マルチコントロールメニュー切り換えつまみ/決定ボタン (➡ 14、16 ページ)

MULTI CONTROL、PUSH ENTER
マルチコントロールボタン
(➡ 14 ページ)

HDMI ランプ
HDMI 接続で映像や音声を再生していると点灯します。

表示部

● ***DIMMER*** (➡ 21 ページ、「表示部を暗くする」) を "***ON*** (入)" にすると、この部分の明るさが変わります。

- チューニング状態表示
- SPEAKERS A、B、BI-WIRE (フロントスピーカー) 表示
- TAPE MONITOR 表示
- スリープタイマー表示
- 共通の表示部
- サウンドモード表示
- 音質・音場効果表示
- デジタル入力表示 (➡ 下記)
- マルチコントロールモード表示
- デジタル処理表示
- 周波数単位表示

デジタル入力表示について
デジタル入力信号に含まれるチャンネルが表示されます。入力がアナログのときは表示されません。

L	：フロントチャンネル(左)	LS：	サラウンドチャンネル(左)
C	：センターチャンネル	SB：	サラウンドバックチャンネル
R	：フロントチャンネル(右)	RS：	サラウンドチャンネル(右)
S	：サラウンドチャンネルがモノラルの場合に表示	LFE：	重低音効果チャンネル

お知らせ
入力ソース (音源) が、HDMI 入力からの DVD オーディオのマルチチャンネル音声の場合は、デジタル入力表示が、正しく表示されない場合があります。

Dolby Digital および Dolby Digital EX について
ドルビー研究所が開発したデジタルサラウンドシステムです。Dolby Digital EX では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。

Dolby Pro Logic Ⅱx および Dolby Pro Logic Ⅱ について
ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネルのあらゆるソースをよりリアルな音場で再生するために開発されたデコードシステムです。サラウンドチャンネルをステレオ音声、フルレンジ(音声帯域が 20 Hz ～ 20 kHz) で再生します。
本機では、6.1ch のときはドルビープロロジックⅡx、5.1ch のときはドルビープロロジック Ⅱ として再生します。

DTS、DTS-ES および DTS 96/24 について
DTS 社が開発したデジタルサラウンドシステムです。
DTS-ES では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。DTS 96/24 では、96 kHz/24 bit の高音質な音声を多チャンネルで再生します。

DTS NEO:6 について
DTS 社が開発したサラウンドデコードシステムです。2 チャンネルのステレオソースなどを、多チャンネルで再生します。

AAC について
BS デジタル放送などに採用されている圧縮音声です。
多チャンネルのサラウンド音声を再生できます。

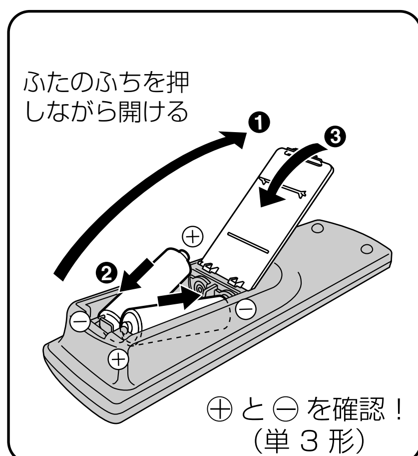
リモコン

- アンプ（本体）電源ボタン（➡ 12 ページ）
  AV システム（接続機器）電源ボタン（➡ 26、27 ページ）
- 入力ソース（音源）、リモコン操作モード切り換えボタン（➡ 26、27 ページ）
- 数字ボタン（➡ 18、26、27 ページ）
- チャンネル（チャンネル選局）ボタン（➡ 19、27 ページ）
- 音量調整ボタン（➡ 15 ページ）
- ダイレクトチューニング（直接選局）ボタン（➡ 18 ページ）
- 消音ボタン（➡ 21 ページ）
- AV システム（接続機器）操作ボタン（➡ 26、27 ページ）
- ラジオ選択/バンド切換ボタン（➡ 18 ページ）
- トップメニュー、プログラムナビボタン（➡ 26 ページ）
- メニュー、プレイリストボタン（➡ 26 ページ）
- 画面表示、テレビ音量 － ボタン（➡ 26、27 ページ）
- カーソル、決定 ボタン（➡ 12、26 ページ）
- ヘルプメッセージ表示ボタン（➡ 28 ページ）
  音声切換（二重音声切り換え）ボタン（➡ 22 ページ）
- リターン、テレビ音量 ＋ ボタン（➡ 12、26、27 ページ）
- テレビ入力切り換えボタン（➡ 27 ページ）
- テスト（テスト信号出力）、セットアップ（オンスクリーンモード）ボタン（➡ 12、15 ページ）
- DVD レコーダー、DVD/ハードディスク切り換えボタン（➡ 26 ページ）
- 各種調整/選択ボタン（➡ 15、17 ページ）
- 音質・音場効果ボタン（➡ 20 ページ）
- レベル（スピーカー出力レベル）、エフェクト（サラウンド効果調整）ボタン（➡ 15、17 ページ）
- サウンドモード選択ボタン（➡ 17 ページ）

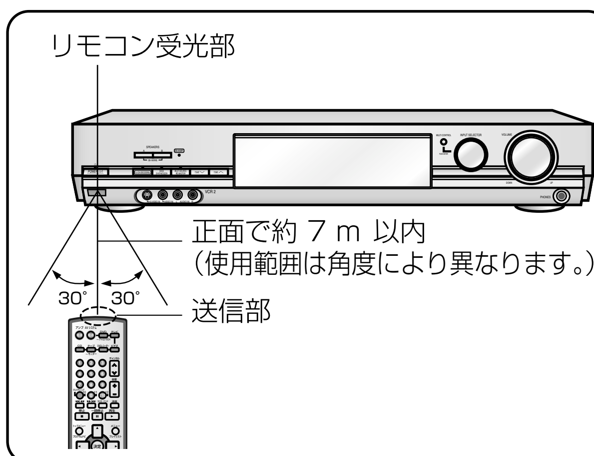
リモコン上の表示：アンプ　AV システム　電源　電源　DVD　テレビ　アナログ 6CH　CD　テープ　DVDレコーダー　ビデオ　モニター　チャンネル　1　2　3　4　5　6　7　8　9　音量　ダイレクトチューニング　10　0　11　≧10　12　ラジオ/バンド　消音　停止　一時停止　再生　トップメニュー　プログラムナビ　メニュー　プレイリスト　決定　画面表示　テレビ音量－　リターン　テレビ音量＋　ヘルプ　音声切換　テレビ入力切換　DVDレコーダー DVD/HDD　サブウーハー　テスト -セットアップ　－　＋　センター フォーカス　マルチリア　レベル　エフェクト　ステレオ/ 2CH MIX　DD プロロジックⅡx　DTS NEO:6　SFC　切

リモコンの準備

乾電池の入れかた



リモコンの使いかた



■**使用上のお願い**

- 受光部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部と送信部のほこりに注意。

■**本体をラックに入れて使用するとき**

ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

準備 ① ホームシアターの接続

ホームシアターを接続するためのステップ

ステップ 1　スピーカーの設置と接続

ステップ 2　DVD レコーダーや DVD プレーヤー、ビデオデッキの接続

ステップ 3　テレビの接続

ステップ 4　電源コードの接続

さらに

準備 ② で、付属のアンテナやお手持ちの CD プレーヤーなどを接続することで、より一層充実したホームシアターや音楽空間をお楽しみいただけます。

準備 ①、② 共通のお知らせ

●接続するときには、各機器の電源を切ってください。
●接続するスピーカーや機器の説明書もご覧ください。
●本機の上には物を載せないでください。
■本機と各機器の接続には下記のコード・ケーブル類を使用します。各接続ページをお読みの上、必要に応じて準備してください。

ステレオピンコード（別売り）
［品番： RP-CAP3G10（1 m）など］



光デジタルケーブル（別売り）
［品番： RP-CA2010A（1 m）など］



同軸デジタルケーブル（市販）



ビデオコード（別売り）
［品番： RP-CVP0G10（1 m）など］



コンポーネント映像コード（別売り）
［品番： RP-CVPCG10（1 m）など］



D 端子ピンケーブル（別売り）
［品番： RP-CVCDG15 （1.5 m）など］



S 映像コード（別売り）
［品番： RP-CVS0G10（1 m）など］

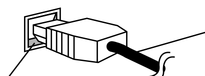


HDMI ケーブル（市販）



別売り品の品番は、2004 年 8 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

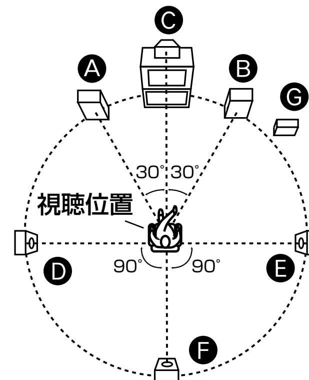
光デジタルケーブルの接続方法



●ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

ステップ 1 スピーカーの設置と接続

スピーカーの設置



視聴位置からフロント/センター/サラウンド/サラウンドバックの各スピーカーを同じ距離に設置するのが理想です。なお、角度はあくまでも目安です。

●同じ距離に設置できない場合は**「距離の設定」**
（➡ 24 または 25 ページ）を行ってください。

フロントスピーカー（Ⓐ 左 Ⓑ 右：別売り）
テレビの左右に置き、視聴位置で（実際に椅子に座るなどして）映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調整してください。

センタースピーカー（Ⓒ ：別売り）
テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。

サラウンドスピーカー（Ⓓ 左 Ⓔ 右：別売り）
視聴位置の左右（横またはやや後ろ）に、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

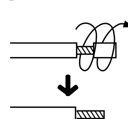
サラウンドバックスピーカー（Ⓕ ：別売り）
視聴位置の後ろに、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

サブウーハー（Ⓖ ：別売り）
テレビから大きく離れない程度の適当な位置に置いてください。置く場所によって低域の周波数特性が変化しますので色々試してみてください。例えば、部屋の隅に置くと少し不自然な感じにはなりますが音量が増加します。

よりリアルな音場を作り出すため、サラウンドバックスピーカーに対応しています。
（➡ 16 ページ　6.1CH DECODING（チャンネルデコーディング））
●ドルビーデジタルサラウンド EX や DTS-ES のソースを楽しむとき
●サラウンドバックスピーカーの効果を加えたサラウンドを楽しむとき

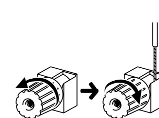
スピーカーコードの接続方法

1

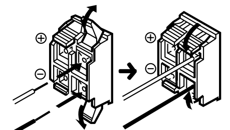


2

フロント端子

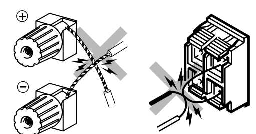


その他の端子



お願い

●L（左）、R（右）と＋、－をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。
●スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。



スピーカーの接続

アクティブ（アンプ内蔵）サブウーハー（別売り）
G 入力
各種スピーカー（別売り）
B フロント右
A フロント左
C センター
E サラウンド右
D サラウンド左
F サラウンドバック

スピーカーコード（別売り）
モノラルピンコード（別売り）
本機背面

お手持ちのスピーカーがBI-WIRE（バイ ワイヤー）対応の場合

BI-WIRE 対応のスピーカーは、下記のように接続してください。

- BI-WIRE 接続すると、高周波域と低周波域で相互干渉がなくなり、高音質な音声が得られます。
- また、アナログ音声や、2 チャンネルの PCM 信号を再生させると、高周波域と低周波域で別々のアンプを使う、より明瞭で高音質なBI-AMP（バイ アンプ）ステレオサウンドを楽しむことができます。(➡ 21 ページ)

スピーカーコード（別売り）
HF フロント右（別売り）LF
HF フロント左（別売り）LF

お知らせ

BI-WIRE 接続した場合は、スピーカーの選択をBI-WIRE にしてください。(➡ 16 ページ)

フロント B 端子を使う

他の部屋で音楽を楽しみたいときや、ステレオ音声を A 端子とは違ったスピーカーを使って楽しみたいときは、フロント B 端子に、2 組めのフロントスピーカーを接続してください。

右フロントスピーカー（別売り）
左フロントスピーカー（別売り）
スピーカーコード（別売り）

お知らせ

- フロント B 端子に接続したスピーカーで音声を楽しみたい場合は、スピーカー B を選択してください。(➡ 21 ページ)
- スピーカー B を選択すると 2 チャンネルのみの再生になり、多チャンネルソース（音源）は強制的に 2 CH MIX になります。

フロント端子にバナナプラグ（市販）を接続するときは

スピーカー端子を右に回してしっかり締めつけ、端子の穴にプラグを挿入してください。

スピーカーインピーダンス

フロント A と B：	6 ～ 16 Ω	センター：	6 ～ 16 Ω
フロント A または B：	6 ～ 16 Ω	サラウンド：	6 ～ 16 Ω
BI-WIRE：	6 ～ 16 Ω		

ステップ 2 DVD レコーダーや DVD プレーヤー、ビデオデッキの接続

DVD プレーヤー（別売り）

音声出力　同軸出力　映像出力

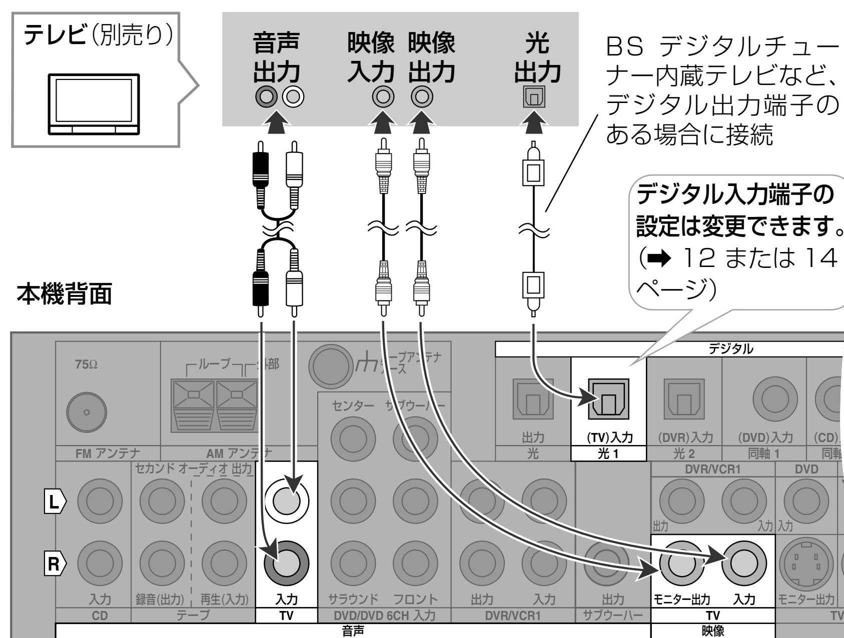
●デジタル入力端子の設定は変更できます。
例えば、DVD プレーヤーに光出力しかない場合でも、「デジタル入力端子の変更」（➡ 12 または 14 ページ）を行うことで使えるようになります。

本機背面

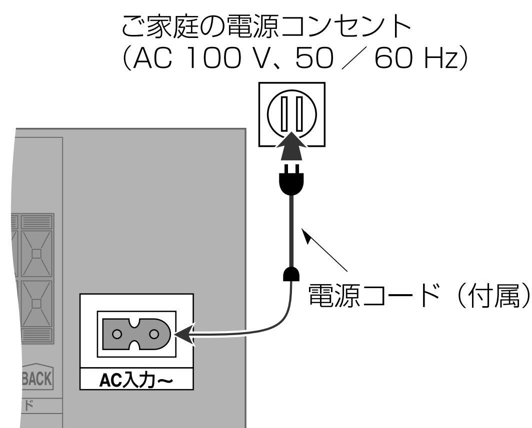
DVD レコーダー（別売り）
（または）
ビデオデッキ（別売り）

音声入力　音声出力　光出力　映像入力　映像出力

ステップ 3 テレビの接続



ステップ 4 電源コードの接続



- 他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。
- 電源プラグをコンセントに接続した状態で約 1.6 W の電力を消費しています。長期間使用しないときは抜いておいてください。
ただし、電源プラグを抜いた状態で約 2 週間そのままにしておくと、本機の各種設定は工場出荷時の状態に戻ります。そのときは再度設定を行ってください。

お知らせ

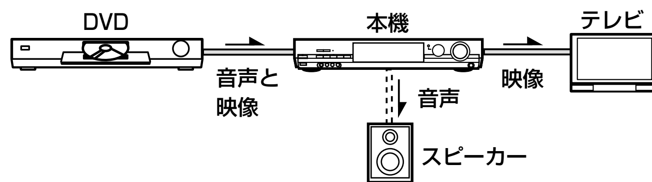
テレビに内蔵されていない BS デジタルチューナーや CS チューナーを接続する場合は、上記の方法ではなく、**10 ページ「BS デジタルチューナーなどの接続」**の方法で接続してください。

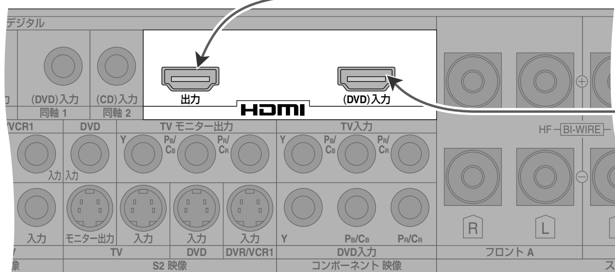
より高音質、高画質で楽しむには

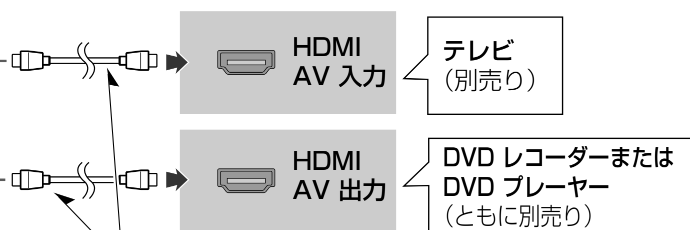
HDMI 接続で、高音質、高画質を手軽に楽しむ

HDMI（High-Definition Multimedia Interface（ハイ デフィニション マルチメディア インターフェイス））は、次世代テレビ向けのデジタルインターフェイス規格で、デジタル映像と音声を１本のケーブルで伝送することができます。また、これにより、本機で DVD オーディオのマルチチャンネル音声をデジタルで楽しむこともできます。
HDMI 接続で、映像や音声を楽しんでいるときは、HDMI ランプが光ります。

HDMI 接続時の映像信号と音声信号の流れ







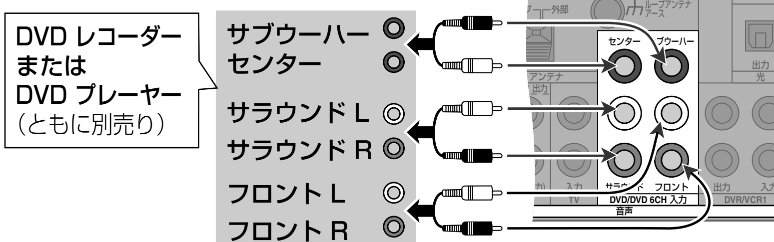
HDMI ケーブル（市販）
より安定した動作や、画質劣化などの防止のため、5 m 以下のケーブルによる接続をおすすめします。

お知らせ

- HDMI 入力からの音声をデジタル録音したいときは、11 ページの方法で、本機の光出力と録音機器を接続してください。（ただし、DVD オーディオのマルチチャンネル音声や、サンプリング周波数 48 kHz を超える 2 チャンネルの PCM 信号は出力されません。）
- 接続した DVD プレーヤーや DVD レコーダーが DVD オーディオのマルチチャンネル音声をデジタル出力できない場合（HDMI Ver. 1.0 の機器など ）は、DVD アナログ 6CH 接続（➡ 下記）で音声を出力させてください。
- 本機の電源を切っている場合は、HDMI からの映像信号や音声信号は、どこからも出力されません。

DVD アナログ 6CH 接続

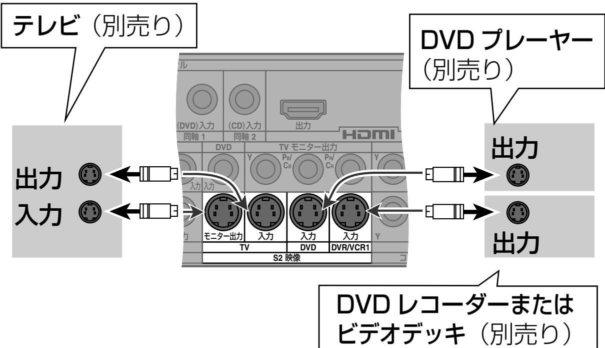
DVD レコーダーや DVD プレーヤーのアナログ音声出力を本機の DVD 6CH 入力に接続して、DVD オーディオなどの高音質な音声を楽しむことができます。（➡ 20 ページ）



高画質で楽しむ（S2 映像またはコンポーネント映像を使う）

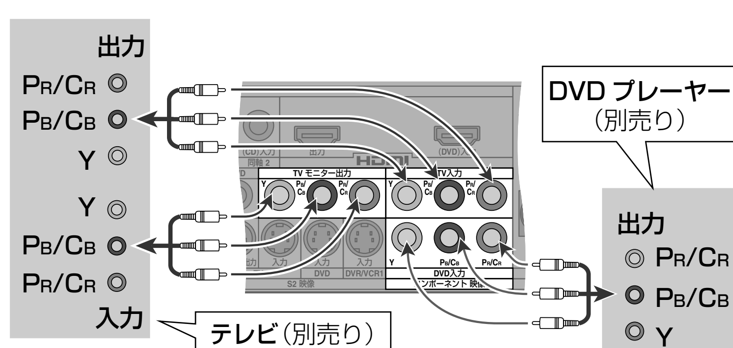
左ページのビデオコードを使った接続よりも高画質で映像が楽しめます。お手持ちの映像機器に合わせて接続してください。

＜ S2 映像を使う場合＞



＜コンポーネント映像を使う場合＞

- コンポーネント映像は、S2 映像よりも忠実な色を再現できます。



映像端子について

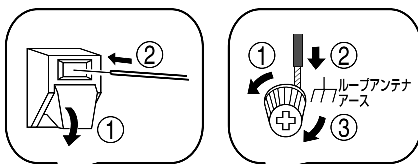
- 入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
- 本機のコンポーネント映像端子は Y、PB、PR または Y、CB、CR のコンポーネント映像に対応しています。
- テレビ側や DVD プレーヤー側の D 端子（D1 ～ D5）と本機のコンポーネント映像端子を接続する場合は、D 端子ピンケーブル（別売り）を使ってください。

準備❷ 音声・映像機器の接続

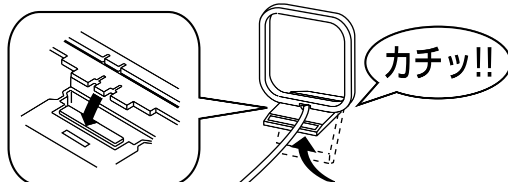
アンテナの接続

FM 簡易型アンテナ（付属）

テープで壁や柱などに止める



AM ループアンテナ（付属）



黒　赤

白

白のコードを左、赤のコードを右の AM アンテナ端子に接続し、黒のコードをアースに巻き付けてください。

●つないだ後、実際に放送を受信して（➡ 18 ページ）みて、雑音の少ない位置に設置してください。
● FM 放送をよりよい音で受信するためには、屋外アンテナの利用をおすすめします（➡ 下記）。

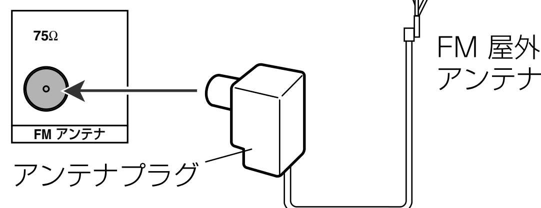
FM 屋外アンテナの利用

●山間部や鉄筋コンクリート建てのビルの中などで、電波を受信しにくい場合は、屋外アンテナを接続してください。
●アンテナ線（同軸ケーブル）をアンテナプラグ（市販）に取り付けて、後面に接続します。付属の FM アンテナは外してください。

お知らせ

分配器でテレビのアンテナと本機に接続する FM 屋外アンテナを共用すると、テレビ画面の乱れの原因になる場合があります。

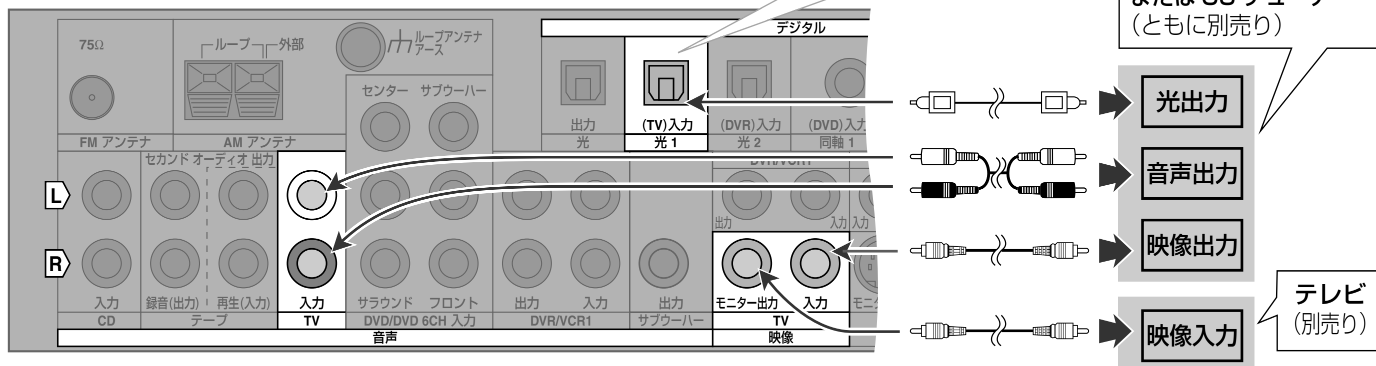
■アンテナプラグの接続



BS デジタルチューナーなどの接続

BS デジタルチューナー（別売り）や CS チューナー（別売り）などを接続できます。

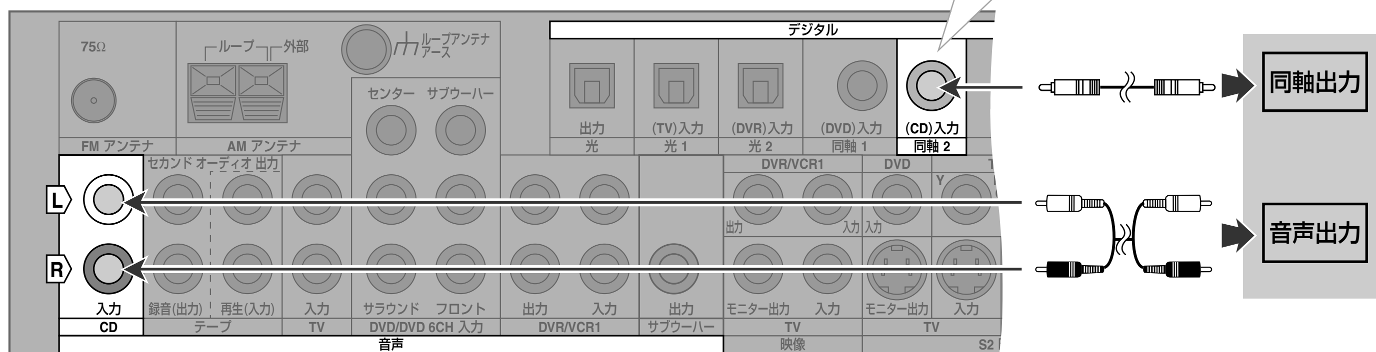
●デジタル入力端子の設定は変更できます。
（➡ 12 または 14 ページ）



CD プレーヤーの接続

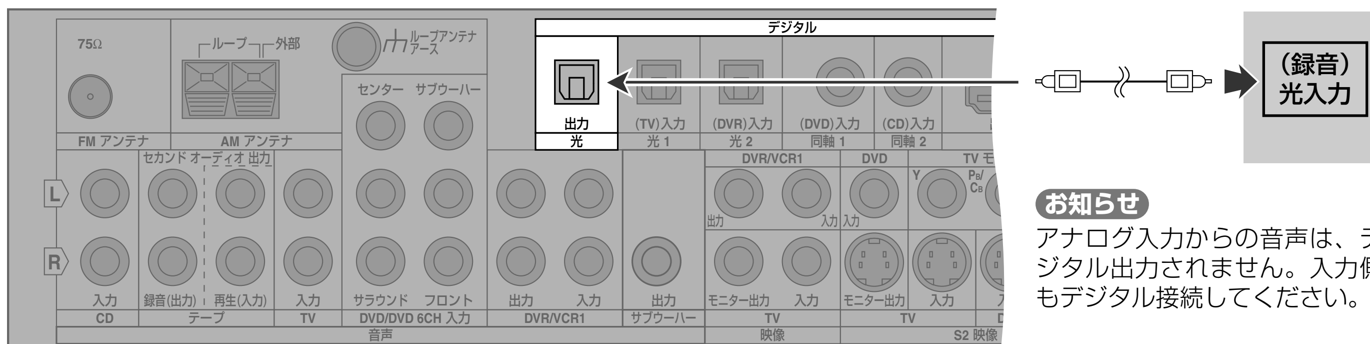
CD プレーヤー（別売り）などを接続できます。

●デジタル入力端子の設定は変更できます。
（➡ 12 または 14 ページ）



MD デッキ（録音用）の接続

MD デッキ（別売り）などのデジタル録音機器を接続できます。録音については 23 ページをご覧ください。

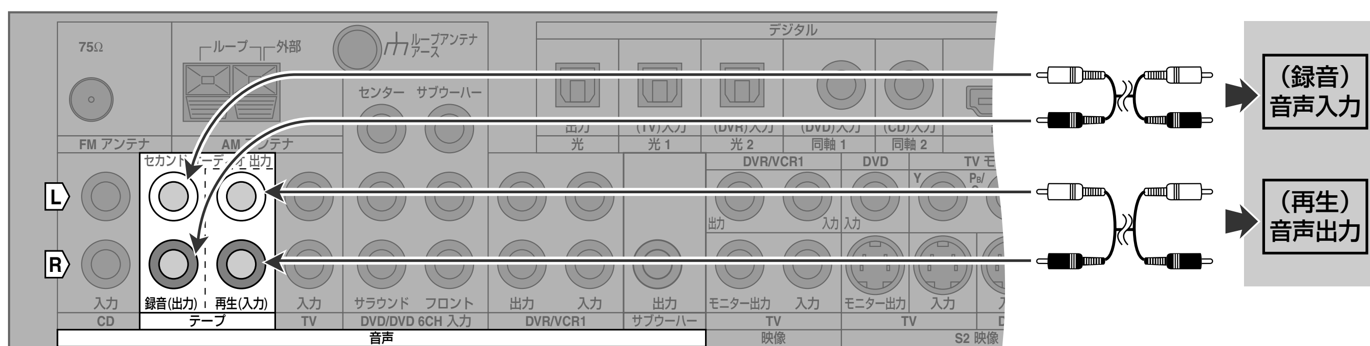


お知らせ

アナログ入力からの音声は、デジタル出力されません。入力側もデジタル接続してください。

カセットデッキの接続

カセットデッキ（別売り）や MD デッキ（別売り）を接続できます。録音については 23 ページをご覧ください。



お知らせ

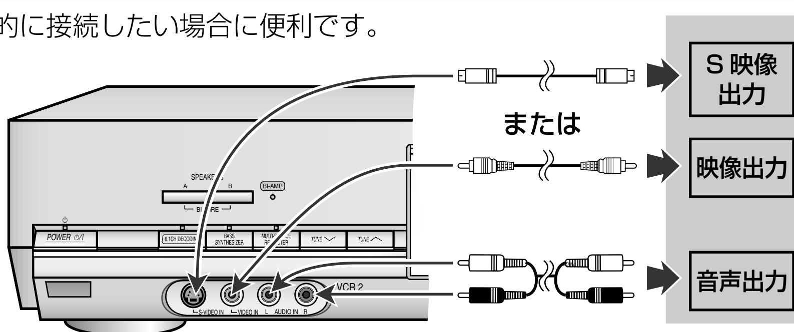
- グラフィックイコライザーを使用する場合は、テープ端子の“録音（出力）”とグラフィックイコライザーの入力端子を、テープ端子の“再生（入力）”とグラフィックイコライザーの出力端子を接続してください。(➡ 21 ページ)
- CD 入力、テープ再生（入力）などのアナログ音声入力端子に、イコライザーアンプ内蔵のアナログプレーヤー（当社製 SL-J8 ：別売り）を接続する場合は、プレーヤーの PHONO OUT／LINE OUT を“LINE OUT”に切り換えてください。

一時的に機器を接続する

ビデオカメラ（別売り）やゲーム機などを、一時的に接続したい場合に便利です。

お知らせ

S 映像を使って接続した場合、通常のビデオコードを使って接続するよりも高画質で映像を楽しめますが、以下の点に注意してください。
- 本機とテレビも S 映像を使って接続してください。
- DVD レコーダーやビデオデッキなどに録画する場合は、通常のビデオコードを使って接続してください。

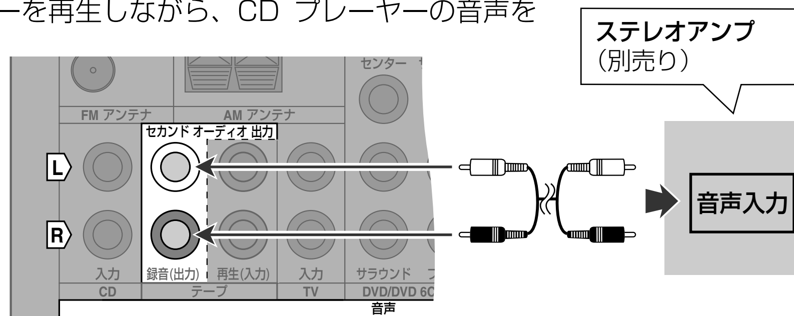


セカンドオーディオ出力

本機のテープ録音（出力）端子は、セカンドオーディオ出力端子として使用することもできます。2 台目のアンプ（別の部屋にあるものなど）に接続してください。(➡ 22 ページ)
- 2 台目のアンプ側で、本機で再生中のソース（音源）を再生したり、本機に接続した他の機器を再生したりできます。（DVD プレーヤーを再生しながら、CD プレーヤーの音声をセカンドオーディオ出力させるなど）

お知らせ

- デジタル入力や HDMI 入力からの音声信号は、セカンドオーディオ出力されません。必ずアナログ接続してください。
- DVD アナログ 6CH の音声は、フロント L、R の音声のみをセカンドオーディオ出力します。



準備③ アンプの設定（基本）

ステップ1 BASIC SETUP（テレビ画面を使って設定する場合）

●接続したスピーカーや機器に合わせて、アンプの基本的な設定を行います。適切な音声を出力させるためにも、特に「スピーカーの有無の設定」と、「サブウーハーの有無の設定」は必ず行ってください。
● 24 または 25 ページ「アンプの設定（応用）」で、スピーカーの有無やサイズ、視聴位置の距離の設定など、より詳細な設定が行えます。
●スピーカーや機器の説明書もご覧ください。



準備

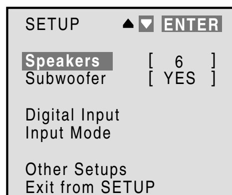
1 本機の電源を入れる

アンプ 電源 押す

2 テレビの電源を入れ、本機との接続に合わせてテレビの入力を切り換える。（ビデオ1など）

3 テレビ画面にオンスクリーンディスプレイを表示させる

-テスト ーセットアップ 表示されるまで押したままにする

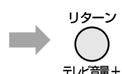


TV 画面

お知らせ

本機とテレビを通常のビデオコードで接続していない場合（S2 映像、コンポーネント映像または HDMI 接続のみで接続している場合など）は、オンスクリーンディスプレイは表示されません。
本体の表示部を使って設定してください。(➡ 14 ページ)

■ひとつ前の画面に戻る/キャンセルする



お知らせ

本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

スピーカーの有無の設定

Speakers

接続したスピーカーの組み合わせを設定します。

L、*R*： フロント左、フロント右
C： センター
LS、*RS*： サラウンド左、サラウンド右
SB： サラウンドバック
ー： スピーカーを接続していない

① "*Speakers*" を選ぶ



押して選び、押して決定



サブウーハーの有無の設定

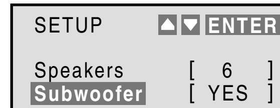
Subwoofer

接続している場合：“*YES*”
接続していない場合：“*NO*”

① "*Subwoofer*" を選ぶ



押して選び、押して決定



デジタル入力端子の変更

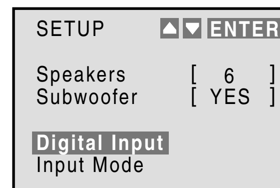
Digital Input

デジタル入力端子に接続した機器に合わせて、設定を*OPT 1*（光 1）、*OPT 2*（光 2）、*COAX 1*（同軸 1）もしくは *COAX 2*（同軸 2）に変更します。また、HDMI 接続した機器が DVD プレーヤーなら “DVD”、DVD レコーダーなら “DVR” に設定します。

① "*Digital Input*" を選ぶ



押して選び、押して決定



入力信号の設定

Input Mode

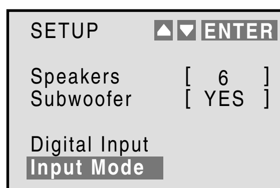
DVD レコーダーや DVD プレーヤーなどのデジタル入力やアナログ入力を自動判別するのか、あらかじめ固定するのかを設定します。特に信号を固定する必要のないときは、“AUTO” にしてください。

AUTO： 自動判別（HDMI 接続からのデジタル信号、OPT または COAX からのデジタル信号、アナログ信号の順に判別）
ANALOG：アナログに固定
DIGITAL：デジタルに固定
PCM FIX：PCM デジタルに固定

① "*Input Mode*" を選ぶ



押して選び、押して決定



スピーカーの有無の設定について

フロントスピーカーのサイズ（➡ 24 または 25 ページ）は、サブウーハーを “*NO*” にすると “*LARGE*” に自動的に設定されます。また、フロントスピーカーのサイズを “*SMALL*” にすると、サブウーハーは “*YES*” に自動的に設定されます。

●アンプの設定方法は、テレビ画面を使う方法（➡ 12 ページ）と本体の表示部を使う方法（➡ 14 ページ）の 2 通りがあり、設定できる内容はどちらも同じです。

●アンプの設定が終わったら、**ステップ 2 "TEST（テスト）"**（➡ 15 ページ）で、接続したスピーカーの出力レベルを調整してください。

② **接続したスピーカーの組み合わせを選ぶ**



押して選び、押して決定

```
SPEAKERS        ▲▼ ENTER

6 [ L-C-R-LS-RS-SB ]
5 [ L---R-LS-RS-SB ]
5 [ L-C-R-LS-RS    ]
4 [ L---R-LS-RS    ]
3 [ L-C-R          ]
2 [ L---R          ]
```

L-C-R-LS-RS-SB	：すべてのスピーカーを接続
L---R-LS-RS-SB	：センター以外を接続
L-C-R-LS-RS	：サラウンドバック以外を接続
L---R-LS-RS	：フロントとサラウンドのみ接続
L-C-R	：フロントとセンターのみ接続
L---R	：フロントのみ接続

③ **"*Exit from SETUP*" を選び、設定を終える**



押して選び、押して決定

```
Other Setups
Exit from SETUP
```

② **"*YES*" または "*NO*" を選ぶ**



押して選び、押して決定

```
SETUP           ◀▶ ENTER

Speakers        [ 6  ]
Subwoofer       [ YES ]
```

③ **"*Exit from SETUP*" を選び、設定を終える**



押して選び、押して決定

```
Other Setups
Exit from SETUP
```

② **デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ**



押して選び、押して決定

```
D-INPUT         ▲▼ ENTER

TV              [ OPT  1 ]
DVR             [ OPT  2 ]
DVD             [ COAX1 ]
CD              [ COAX2 ]

HDMI            [  DVD  ]
```

③ **デジタル入力の設定を変更する**



押して選び、押して決定

```
D-INPUT         ◀▶ ENTER

TV              [ COAX1 ]
DVR             [ OPT  2 ]
DVD             [ OPT  1 ]
CD              [ COAX2 ]

HDMI            [  DVD  ]
```

手順 ② と ③ を繰り返して各入力端子の設定を変更する。

④ **"*Return*" を選んで、前の画面に戻る**



押して選び、押して決定

```
TV              [ COAX1 ]
DVR             [ OPT  2 ]
DVD             [ OPT  1 ]
CD              [ COAX2 ]

HDMI            [  DVD  ]
Return
```

⑤ **"*Exit from SETUP*" を選び、設定を終える**



押して選び、押して決定

```
Speakers        [  6  ]
Subwoofer       [ YES ]

Digital Input
Input Mode

Other Setups
Exit from SETUP
```

② **デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ**



押して選び、押して決定

```
INPUT           ▲▼ ENTER
MODE

TV              [ AUTO ]
DVR             [ AUTO ]
DVD             [ AUTO ]
CD              [ AUTO ]
```

③ **入力信号の判別方法を選ぶ**



押して選び、押して決定

```
INPUT           ◀▶ ENTER
MODE

TV              [ANALOG ]
DVR             [ AUTO  ]
DVD             [ AUTO  ]
CD              [ AUTO  ]
```

手順 ② と ③ を繰り返して入力信号の設定を変更する。

④ **"*Return*" を選んで、前の画面に戻る**



押して選び、押して決定

```
TV              [ ANALOG ]
DVR             [  AUTO  ]
DVD             [  AUTO  ]
CD              [  AUTO  ]

Return
```

⑤ **"*Exit from SETUP*" を選び、設定を終える**



押して選び、押して決定

```
Speakers        [  6  ]
Subwoofer       [ YES ]

Digital Input
Input Mode

Other Setups
Exit from SETUP
```

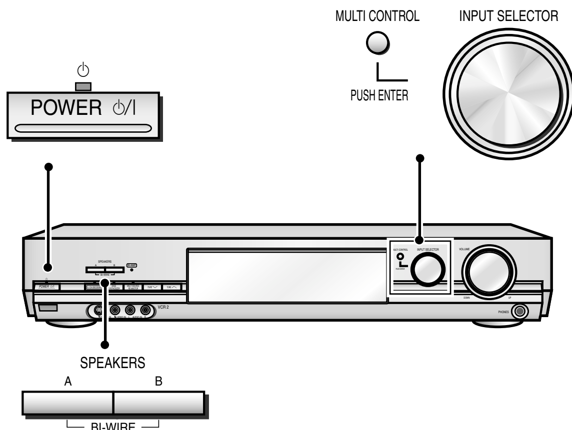
入力信号の設定について

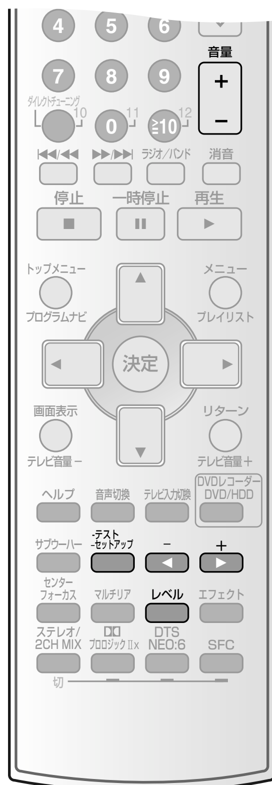
"***PCM FIX***" は、PCM（音楽 CD など）のデジタル信号のみを処理するように設定します。
CD を再生したとき、曲の始まりが途切れるような場合に使用してください。正常に再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。
●ノイズが発生する場合は解除してください。
● "***PCM FIX***" を選んだ場合は、マルチチャンネル再生できません。2 チャンネルに固定されます。

アンプの設定（基本）（つづき）

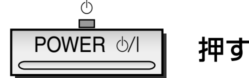
ステップ1 BASIC SETUP（本体の表示部を使って設定する場合）

- 接続したスピーカーや機器に合わせて、アンプの基本的な設定を行います。適切な音声を出力させるためにも、特に「スピーカーの有無の設定」は必ず行ってください。
- 24 または 25 ページ「アンプの設定（応用）」で、スピーカーの有無やサイズ、視聴位置の距離の設定など、より詳細な設定が行えます。
- 「マルチコントロールのメニューと工場出荷時の状態」については裏表紙を参照ください。
- スピーカーや機器の説明書もご覧ください。





1 電源を入れる



押す

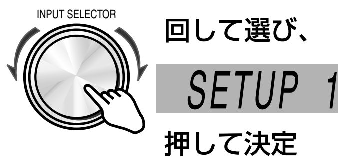
2 マルチコントロールモードに入る



押す

《《 MULTI CONTROL 》》

3 “SETUP 1（BASIC SETUP）”を選ぶ



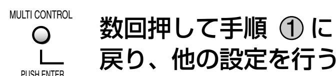
回して選び、

SETUP 1

押して決定

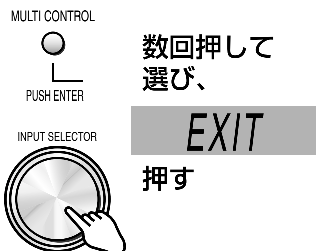
4 各種設定を行う（➡ 右記）

■続けて他の設定を行う場合は



数回押して手順 ① に戻り、他の設定を行う

5 “EXIT”を選び、設定を終える

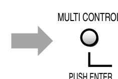


数回押して選び、

EXIT

押す

■ひとつ前のメニューに戻る／キャンセルする



スピーカーの有無の設定

SPEAKERS

接続したスピーカーの組み合わせを設定します。

SUBW：サブウーハー
L R：フロント L（左）/R（右）
C：センター
S：サラウンド
SB：サラウンドバック
_：スピーカーを接続していない

デジタル入力端子の変更

D-INPUT

デジタル入力端子に接続した機器に合わせて、設定を *OPT 1*（光 1）、*OPT 2*（光 2）、*COAX 1*（同軸 1）もしくは *COAX 2*（同軸 2）に変更します。

HDMI 接続した機器の設定

HDMI SEL

本機と HDMI 接続している機器を設定します。

DVD：DVD プレーヤーと HDMI 接続
DVR：DVD レコーダーと HDMI 接続

入力信号の設定

IN MODE

DVD レコーダーや DVD プレーヤーなどのデジタル入力やアナログ入力を自動判別するのか、あらかじめ固定するのかを設定します。特に信号を固定する必要のないときは、“AUTO” にしてください。

AUTO：自動判別（HDMI 接続からのデジタル信号、OPT または COAX からのデジタル信号、アナログ信号の順に判別）
ANALOG：アナログに固定
DIGITAL：デジタルに固定
PCM FIX：PCM デジタルに固定

<u>スピーカーの有無の設定について</u>

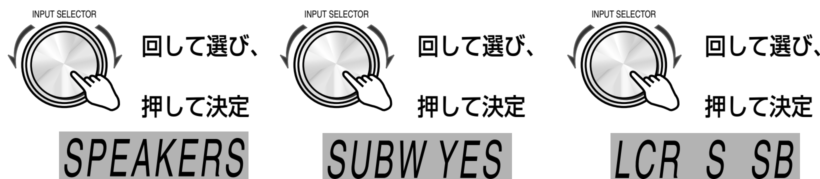
フロントスピーカーのサイズ（➡ 24 または 25 ページ）は、サブウーハーを “*NO*” にすると “*LARGE*” に自動的に設定されます。また、フロントスピーカーのサイズを “*SMALL*” にすると、サブウーハーは “*YES*” に自動的に設定されます。

お知らせ

本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

●アンプの設定方法は、テレビ画面を使う方法（➡ 12 ページ）と本体の表示部を使う方法（➡ 14 ページ）の 2 通りがあり、設定できる内容はどちらも同じです。
●アンプの設定が終わったら、**ステップ 2 "TEST（テスト）"**（➡ 右記）で、接続したスピーカーの出力レベルを調整してください。

① **"SPEAKERS" を選ぶ**　② **サブウーハーの有無を選ぶ**　③ **接続したスピーカーの組み合わせを選ぶ**



YES：サブウーハーを接続している
NO：サブウーハーを接続していない

LCR S SB	すべてのスピーカーを接続
L_R S SB	センター以外を接続
LCR S _ _	サラウンドバック以外を接続
L_R S _ _	フロントとサラウンドのみ接続
LCR _ _ _	フロントとセンターのみ接続
L_R _ _ _	フロントのみ接続

① **"D-INPUT" を選ぶ**　② **デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ**　③ **デジタル入力の設定を変更する**

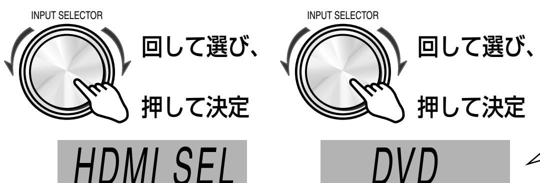


TV、DVR、DVD、CD

OPT 1、OPT 2、COAX 1、COAX 2

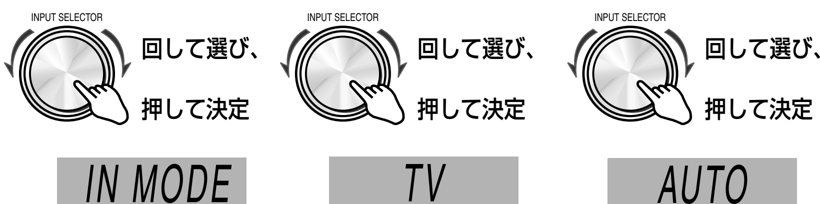
手順②と③を繰り返して各入力端子の設定を変更する。

① **"HDMI SEL" を選ぶ**　② **HDMI 接続した機器を選ぶ**



DVD：DVD プレーヤーと HDMI 接続している場合
DVR：DVD レコーダーと HDMI 接続している場合

① **"IN MODE" を選ぶ**　② **デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ**　③ **入力信号の判別方法を選ぶ**



TV、DVR、DVD、CD

AUTO、ANALOG、DIGITAL、PCM FIX

手順②と③を繰り返して入力信号の設定を変更する。

入力信号の設定について

"***PCM FIX***" は、PCM（音楽 CD など）のデジタル信号のみを処理するように設定します。CD を再生したとき、曲の始まりが途切れるような場合に使用してください。正常に再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。
●ノイズが発生する場合は解除してください。
●"***PCM FIX***" を選んだ場合は、マルチチャンネル再生できません。2 チャンネルに固定されます。

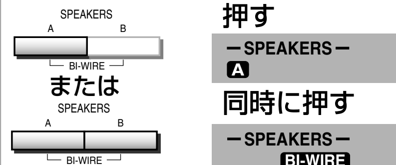
デジタル入力端子の変更について

ひとつの入力に対して複数の端子を使用することはできません。例えば、工場出荷時の設定から、DVD のデジタル入力端子を "***OPT 1***" に設定した場合、DVD を光 1（***OPT 1***）入力以外のデジタル端子で使用することはできません。

ステップ 2 TEST（テスト）

視聴位置で、フロントスピーカーと各スピーカーからの音がバランスよく聞こえるように、スピーカーの出力レベルを調整します。

1 フロントスピーカーをフロント A 端子に接続した場合 SPEAKERS A
BI-WIRE 接続した場合 BI-WIRE を選ぶ



●スピーカー B を選択していると、テスト信号は出力されません。

2 テスト信号を出力させる



約 2 秒間隔で下記の順に出力されます。
1. ***L***：フロント（左）
2. ***C***：センター
3. ***R***：フロント（右）
4. ***RS***：サラウンド（右）
5. ***SB***：サラウンドバック
6. ***LS***：サラウンド（左）
7. ***SW***：サブウーハー

●スピーカーの設定（➡ 12 または 14、24 または 25 ページ）で、接続していない設定にしたスピーカーはスキップされます。

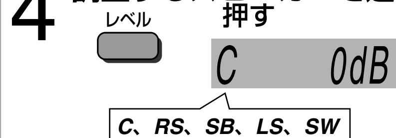
●テスト信号出力中は、HDMI 入力からの映像信号は出力されません。

3 フロントスピーカーを通常聞く音量にする



-- dB（最小）　***0 dB***（最大）

4 調整するスピーカーを選ぶ



C、RS、SB、LS、SW

5 各スピーカーの音量を調整する



C/RS/SB/LS：*－10 dB ～ ＋10 dB*（工場出荷時：*0dB*）
SW：*MIN*（最小）↔ *1 ～ 19* ↔ *MAX*（最大）（工場出荷時：*10*）

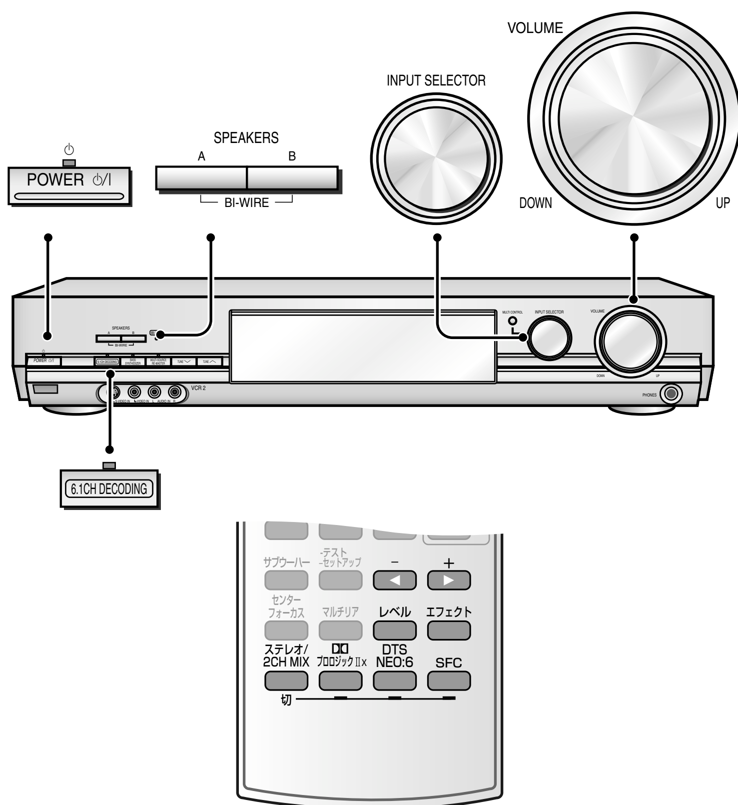
手順 4 と 5 を繰り返して各スピーカーを調整する。

●手順 4 と 5 では調整しているスピーカーからのみ出力されます。操作後約 2 秒経つと、再び順に出力されます。

6 テスト信号を止める



映画や音楽を楽しむ



BGV（バックグラウンドビジュアル）機能

DVR/VCR1 に接続した映像機器を再生中に、セレクターを ***TUNER FM***、***TUNER AM***、***CD*** または ***TAPE*** に切り換えると、映像機器の音声は消えますが、映像はそのまま残ります。

本機で再生可能なデジタル信号

- AAC
- ドルビーデジタル（ドルビーデジタルサラウンド EX も含む）
- DTS（DTS-ES、DTS 96/24 も含む）
- CD などの PCM 信号（同軸 1 デジタル入力端子と HDMI 端子は 192 kHz まで、その他のデジタル入力端子は 96 kHz まで）

お知らせ

ドルビーデジタル RF 信号や、MPEG 音声信号は再生できません。

デジタル信号について

- デジタル信号が入ったときや、***Input Mode*** または ***IN MODE*** (➡ 12 または 14 ページ) を "***DIGITAL***" に切り換えたときは、表示部にデジタル入力表示が点灯します。(➡ 4 ページ)
- 多チャンネルのデジタル信号が入ったときはマルチデコーダーランプが点灯します。(➡ 4 ページ)

サウンドモードについて

- センターとサラウンドスピーカーを接続していない設定にしたとき (➡ 12 または 14、24 または 25 ページ) は、ドルビープロロジック Ⅱx、ドルビープロロジック Ⅱ、DTS NEO:6、SFC の各モードは使用できません。
- PCM 信号のサンプリング周波数が 48 kHz を超えるときは、ドルビープロロジック Ⅱx、ドルビープロロジック Ⅱ、DTS NEO:6、SFC の各モードは使用できません。
- ドルビーデジタルサラウンド EX や DTS-ES の信号を自動的に認識しないときは、本体の [6.1CH DECODING] を押してサラウンドバックチャンネルを有効にしてください。

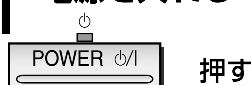
HDMI 入力からの音声信号が DVD オーディオのマルチチャンネルの場合

- ドルビープロロジック Ⅱx、ドルビープロロジック Ⅱ、DTS NEO:6、SFC の各モードは使用できません。
- 6.1CH DECODING は使用できません。
- スピーカーの有無やサイズの設定 (➡ 12 または 14、24 または 25 ページ) は無効になります。本機で設定した内容を、DVD レコーダーまたは DVD プレーヤー側でも設定してください。

さらに、ダウンミックス禁止のソース（音源）の場合は、

- 2 CH MIX は使用できません。
- スピーカー B を選択していたり、スピーカーをすべて「切」にしてヘッドホンで聞いているときなどは、正常に再生できないことがあります。

1 電源を入れる



押す

2 フロントスピーカーをフロント A 端子に接続した場合 SPEAKERS A BI-WIRE 接続した場合 BI-WIRE を選ぶ



押す

－SPEAKERS－
A

同時に押す

－SPEAKERS－
BI-WIRE

3 セレクターを切り換え、入力ソース（音源）を選ぶ



回す

DVD

TUNER FM、***TUNER AM***、***CD***、***TV***、***DVD***、***DVR/VCR1***、***VCR 2***、***TAPE***

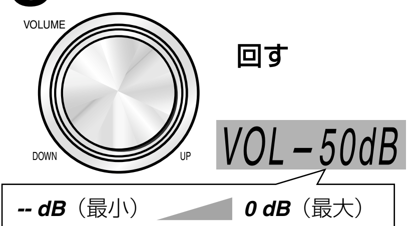
4 入力ソース（音源）を再生する

- HDMI 接続で、映像や音声を再生させると、HDMI ランプが光ります。(➡ 4 ページ)
- 入力信号に応じてステレオまたはサラウンドで再生されます。例えば、ドルビーデジタルや DTS などの多チャンネルデジタル信号の場合は、自動的にサラウンドで再生されます。

■好みのサラウンド効果を加えたい場合や多チャンネルをステレオで聞きたい場合などは（➡ 右記「サウンドモード」）

- スピーカー B を選択していると 2 チャンネルのみの再生になります。多チャンネル再生させたい場合は、[B] を押して、"B" を消してください。

5 音量を調整する



回す

VOL −50dB

-- dB（最小） ***0 dB***（最大）

■再生を楽しんだ後は

音量を下げてから [POWER ⏻/I] を押して電源を切ってください。

サウンドモード

DOLBY PRO LOGIC Ⅱx/ DOLBY PRO LOGIC Ⅱ

ステレオソース（音源）を多チャンネルで楽しめます。また、ドルビーデジタル 5.1 CH のソース（音源）を、6.1 CH で楽しむことができます。
本機では、6.1CH のときはドルビープロロジック Ⅱ x、5.1CH のときはドルビープロロジック Ⅱ として再生します。

DTS NEO:6

ステレオソース（音源）を多チャンネルで楽しめます。

SFC (Sound Field Control)

ドルビーデジタル、DTS、アナログや PCM のソース（音源）に好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンドが楽しめます。

6.1CH DECODING

サラウンドバックスピーカーを加えたサラウンド再生で、よりリアルな音場を作ります。

ドルビープロロジック Ⅱx/ドルビープロロジック Ⅱ

MOVIE（ムービー）
特にドルビーサラウンドで記録されたものなど、映画ソフトで効果があります。

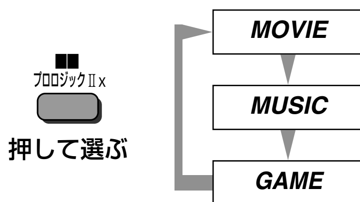
MUSIC（ミュージック）
音楽ソース（音源）で効果があります。

GAME（ゲーム）
迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しめます。

DTS NEO:6

CINEMA（シネマ）
映画ソフトで効果があります。

MUSIC（ミュージック）
音楽ソース（音源）で効果があります。



●下記「サラウンド効果一覧」を参照ください。
●入力ソース（音源）がドルビーデジタル 5.1CH やドルビーサラウンド EX の場合は、“***GAME***” モードは使えません。また、“***MOVIE***” モードは、“***DOLBY EX***” と表示されます。

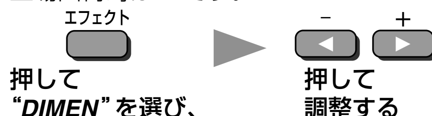
■解除するには
［ステレオ/2CH MIX、切］を押す。

■「*MUSIC*」で行える調整
入力ソース（音源）がステレオのときに使用できます。

C-WDTH **（Center Width Control）**（センター ウイドゥス コントロール）
フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。***0***（センターがはっきりする）から ***7***（センターが広がる）の間で調整できます。
工場出荷時は ***3*** です。

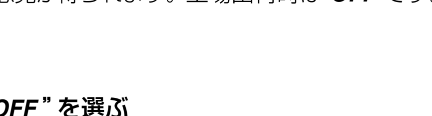


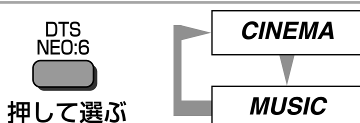
DIMEN **（Dimension Control）**（ディメンジョン コントロール）
フロントとサラウンドスピーカーの出力バランスを調整できます。
-3（サラウンドが強くなる）から ***+3***（フロントが強くなる）の間で調整できます。
工場出荷時は ***0*** です。



PANORAMA（パノラマ）
さらなる広がりによって音楽に包まれるような感覚が得られます。工場出荷時は ***OFF*** です。







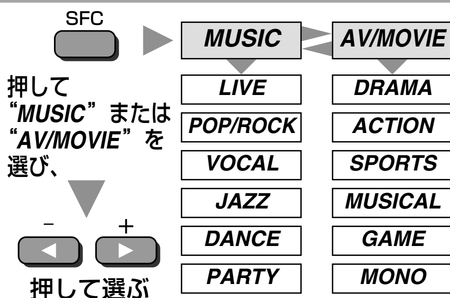
●下記「サラウンド効果一覧」を参照ください。
●“DTS” ランプや “■■ DIGITAL” ランプ、“AAC” ランプが点灯しているときは、“***CINEMA***” モードになります。変更できません。

■解除するには
［ステレオ/2CH MIX、切］を押す。

■「*MUSIC*」で行える調整

C-IMG **（Center Image Control）**（センター イメージ コントロール）
フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。
0（センターがはっきりする）から ***5***（センターが広がる）の間で調整できます。
工場出荷時は ***3*** です。





●下記「サラウンド効果一覧」を参照ください。

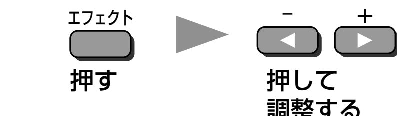
■解除するには
［ステレオ/2CH MIX、切］を押す。

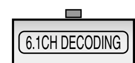
■ SFC のすべてのモードで行える調整
スピーカーごとに調整して好みのサウンドを作ることができます。

出力レベルを調整する
C（センター）、***LS***（左サラウンド）、***RS***（右サラウンド）または ***SB***（サラウンドバック、6.1CH DECODING 時のみ）では、***-10 dB*** ～ ***+10 dB*** の間で調整できます。
SW（サブウーハー）では、***---***（切）、***MIN***（最小）、***1*** ～ ***19***、***MAX***（最大）の間で調整できます。



効果の強弱を調整する
効果の強弱を ***EFFECT 1***（最小）から ***EFFECT 10***（最大）の間で調整できます。
工場出荷時は ***EFFECT 5*** です。





押す
ランプが点灯します。

●ドルビーデジタルサラウンド EX、DTS-ES ソースの場合は、ボタンを押さなくても自動的に働くものもあります。
●DTS 96/24 ソース（音源）の場合は、ボタンを押すと通常の DTS として再生されます。

■解除するには
もう一度［6.1CH DECODING］を押す。
●ステレオソース（音源）を、ドルビープロロジックⅡx で再生しているときに解除すると、ドルビープロロジックⅡ になります。

2CH MIX（チャンネルミックス）
多チャンネルの信号を 2 チャンネルに集約し、左右のフロントスピーカーから出力します。



押す

■多チャンネル音声に戻すには
もう一度［ステレオ/2CH MIX、切］を押す。

サラウンド効果一覧

SFC MUSIC（ミュージック）

LIVE（ライブ）
大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。

POP/ROCK（ポップ/ロック）
ポピュラーやロック音楽に適した効果。

VOCAL（ボーカル）
ボーカルの声を際立たせる効果。

JAZZ（ジャズ）
ジャズクラブのような狭い部屋での音の反響。

DANCE（ダンス）
ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。

PARTY（パーティー）
パーティー会場などの、どこにいてもステレオ音声を楽しめる効果。

SFC AV/MOVIE（AV/ムービー）

DRAMA（ドラマ）
セリフがメインになるようなドラマに適した効果。

ACTION（アクション）
迫力のあるアクション映画に適した効果。

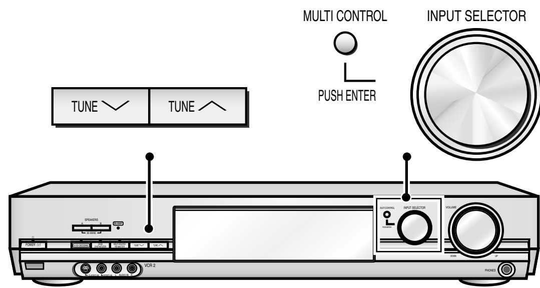
SPORTS（スポーツ）
スポーツ観戦をしているような臨場感。

MUSICAL（ミュージカル）
ミュージカル劇場にいるような臨場感。

GAME（ゲーム）
迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。

MONO（モノラル）
昔のモノラル音声の映画などに適した効果。

ラジオを聞く





周波数を合わせて放送局を選ぶ

リモコンで操作する

数字ボタンを使って直接放送局を指定できます。

1 "*FM*"または"*AM*"を選ぶ

ラジオ/バンド 押す

FM 76.0 MHz

2 ダイレクトチューニングモードにする

ダイレクトチューニング 10 押す

FM _ MHz

カーソル

3 周波数を入力する

カーソルが点滅している間に**押す**

例：88.1 MHz に合わせる

8 → 8 → 1 を押す。

- 周波数が正しく入力されると、周波数が一度点滅し、その後、点灯状態になります。
- 受信できない周波数を入力すると"***ERROR***"が表示されます。もう一度入力し直してください。

本体で操作する

手順 2～6 は、すでに"*MANUAL*"を選んでいる場合は必要ありません。（工場出荷時は、"*MANUAL*"です。）

1 "*TUNER FM*"または"*TUNER AM*"を選ぶ

INPUT SELECTOR 回す

TUNER FM

2 マルチコントロールモードに入る

MULTI CONTROL PUSH ENTER 押す

3 "*TUNER*"を選ぶ

INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定

TUNER

4 "*TUNING*"を選ぶ

INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定

TUNING

5 "*MANUAL*"を選ぶ

INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定

MANUAL

MANUAL*、*PRESET

6 設定を終える

MULTI CONTROL PUSH ENTER 数回押して"***EXIT***"を選び、

INPUT SELECTOR 押す

7 好みの放送局を受信する

TUNE TUNE 押す

TUNED ST
FM 88.1 MHz

TUNED：正確に受信すると点灯
ST：FM ステレオ放送を受信すると点灯

■自動的に選局するには（オートチューニング）

ボタンを長く押し、周波数表示が変わり始めたら指を離す

- 最初に受信した放送局で自動停止します。
- オートチューニング中、周囲に電波妨害があると、放送局を受信せずに停止することがあります。

- ラジオ受信中に DVD レコーダーや DVD プレーヤーなどからノイズを拾うことがあります。そのときは 各機器の電源を切るか、AM ループアンテナを本機と各機器からできるだけ離してください。

■ラジオ受信中に雑音が多いとき

1 マルチコントロールモードに入る

MULTI CONTROL PUSH ENTER 押す

2 設定を変更する（➡ 右記）

3 設定を終える

MULTI CONTROL PUSH ENTER 数回押して"***EXIT***"を選び、

INPUT SELECTOR 押す

FM ステレオ放送で雑音が多いとき

(FM モード)

モノラル音声に切り換えて、雑音を減らします。

- モノラル音声に設定すると表示部に"**MONO**"が点灯します。

① "***TUNER***"を選ぶ — 回して選び、押して決定 — TUNER

② "***FM MODE***"を選ぶ — 回して選び、押して決定 — FM MODE

③ "***MONO***"を選ぶ — 回して選び、押して決定 — MONO

AUTO*、*MONO
■解除するには"***AUTO***"を選ぶ

AM 放送で雑音が多いとき

(ビートプルーフ モード)

AM 放送で雑音が気になる場合はこの設定を行ってください。

- 音量が変わりますが、雑音が減る場合があります。
- モードを切り換えるとアッテネーター（➡ 22 ページ）も連動して切り換わります。

① "***OPTION***"を選ぶ — 回して選び、押して決定 — OPTION

② "***B PROOF***"を選ぶ — 回して選び、押して決定 — B PROOF

③ "***MODE A***"または"***MODE B***"を選ぶ — 回して選び、押して決定 — MODE A

MODE A*、*MODE B
- 雑音の少ないモードを選んでください。

放送局を記憶させて聞く

本機のプリセットチャンネルに周波数をメモリー（最大 30 局）し、簡単に受信できます。

■自動で記憶させる（オートメモリー）
受信できる放送局を低い周波数から順に自動で記憶していきます。
FM 局： 1 ～ 30 チャンネルに記憶
AM 局： 21 ～ 30 チャンネルに記憶
●必ず先に FM 局から行ってください。逆にすると AM 局のメモリーが消えてしまいます。

■手動で記憶させる（マニュアルメモリー）
好みの放送局を好みのチャンネルに記憶できます。

お知らせ
電波が弱い、あるいは強すぎるなどの理由で正確にオートメモリーできないことがあります。その場合はマニュアルメモリーを行ってください。

自動で記憶させる（オートメモリー）
本体操作のみ

1 ***FM* の場合は *76.0 MHz*、*AM* の場合は *522 kHz* に合わせる**（➡ 左ページ）

2 **マルチコントロールモードに入る**
MULTI CONTROL 押す
PUSH ENTER

3 **“*TUNER*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定
TUNER

4 **“*AUTO MEM*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定
AUTO MEM

5 **“*START*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定
START

START*、*CANCEL
●オートメモリーが始まり、“M”が点滅します。
●放送局が記憶されるとメモリーしたチャンネルと“M”表示が約 1 秒間点灯します。
●オートメモリーが終了すると、最後に記憶された放送局の周波数が表示されます。
■中止するには“***CANCEL***”を選ぶ

手動で記憶させる（マニュアルメモリー）
本体操作のみ

1 **好みの放送局を受信する**（➡ 左ページ）

2 **マルチコントロールモードに入る**
MULTI CONTROL 押す
PUSH ENTER

3 **“*TUNER*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定
TUNER

4 **“*MEMORY*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定
MEMORY

5 **記憶させるチャンネルを選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定
CH 1

CH 1* ～ *CH 30
●チャンネルを決定すると“***STORED***”が表示されます。

お知らせ
●続けてメモリーする場合は手順 1 から行ってください。
●放送受信を“**MONO**”に設定した状態もメモリーできます。（➡ 左ページ）

6 **設定を終える**
MULTI CONTROL PUSH ENTER 数回押して“***EXIT***”を選び、
▼
INPUT SELECTOR 押す

メモリーした放送局を聞く
リモコンで操作する

■チャンネルを切り換える
チャンネル ∧ ∨ 押す
CH 1

（または）

■数字ボタンでチャンネルを入力する
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 ≧10 押す
CH 1

チャンネル 10 以上の選び方
例：10 ≧10 → 1 → 0
25 ≧10 → 2 → 5

本体で操作する

手順 2 ～ 6 は、すでに“*PRESET*”を選んでいる場合は必要ありません。

1 **“*TUNER FM*”または“*TUNER AM*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回す

2 **マルチコントロールモードに入る**
MULTI CONTROL 押す
PUSH ENTER

3 **“*TUNER*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定

4 **“*TUNING*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定

5 **“*PRESET*”を選ぶ**
INPUT SELECTOR 回して選び、押して決定
PRESET

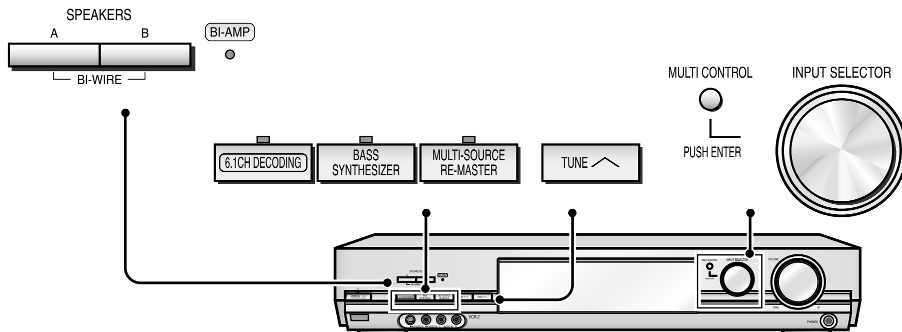
6 **マルチコントロールモードを終える**
MULTI CONTROL PUSH ENTER 数回押して“***EXIT***”を選び、
▼
INPUT SELECTOR 押す

7 **チャンネルを選ぶ**
TUNE ﹀ TUNE ︿ 押す
●ボタンを押したままにすると、チャンネルを早送りできます。
CH 1

マルチコントロールメニュー
■ひとつ前のメニューに戻る/キャンセルする ➡ MULTI CONTROL PUSH ENTER

楽しむ
ラジオを聞く

音質・音場効果/便利な機能





サブウーハーレベルの調整

ソース（音源）を再生中に出力レベルを調整できます。重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みにあわせて調整できます。



押して選ぶ

SW 10

---、*MIN*（最小）、*5*、*10*、*15*、*MAX*（最大）

●現在の設定が表示されます。
●工場出荷時の設定は "*SW 10*" です。
● "*---*" を選ぶとサブウーハーから音は出ません。

お知らせ

●サブウーハーレベルが高い状態で本機の音量を上げると、サブウーハーから出力される音がひずんで聞こえることがあります。この場合はサブウーハーレベルを下げてください。
●細かく設定したいときは、「TEST」で、出力レベルを調整してください。(➡ 15 ページ)
●DVD アナログ 6 CH が選ばれている場合は、この機能は使えません。

センターフォーカス

センターチャンネルに音声がある
ドルビーデジタル、DTS、AAC のみ

センタースピーカーから聞こえる音声をテレビ画面の中央に集めることで、テレビ画面の中から音声が聞こえてくるかのようにします。



押す

CENTER FOCUS
C.FOCUS

■解除するには、もう一度押す

お知らせ

●センタースピーカーを接続しない設定にしたとき（➡ 12 または 14、24 または 25 ページ）は、この機能は使えません。
●センターチャンネルにのみ音声がある場合（モノラル）は、この機能は使えません。

マルチリアサラウンド

サラウンドチャンネルに音声がある
ドルビーデジタル、DTS、AAC のみ

サラウンドスピーカーが多数あるような効果を楽しめます。



押す

MULTI REAR
M.REAR

■解除するには、もう一度押す

お知らせ

●サラウンドチャンネルがモノラルの場合は、この機能は使えません。
●サラウンドスピーカーを接続しない設定にしたとき（➡ 12 または 14、24 または 25 ページ）は、この機能は使えません。

バスシンセサイザー

重量感を持たせた迫力のある低音を楽しめます。



押す
ランプが点灯します。

BASS ON

■解除するには、もう一度押す

お知らせ

ソース（音源）がドルビーデジタルのステレオや DTS のステレオの場合は使えません。

より自然な音で聞く

（マルチ-ソース リ. マスター）

ソース（音源）に記録されていない高い周波数信号を付け加えることで、より自然で豊かな音質が楽しめます。



押して選ぶ
ランプが点灯します。

EFFECT 1　DIGITAL PROCESSING fs 96 kHz

EFFECT 1：テンポの速い曲（ポップスやロックなど）
EFFECT 2：さまざまなテンポの曲（ジャズなど）
EFFECT 3：ゆっくりした曲（クラシックなど）
EFFECT 4：圧縮して記録された音楽ディスクなど
OFF：　切（工場出荷時）

リ. マスター使用時は、入力信号の倍の周波数でデジタル処理されます。（アナログ音声は 96 kHz で処理）

DVD アナログ 6CH を再生する

DVD レコーダーや DVD プレーヤーのアナログ音声出力を本機の DVD 6CH 入力に接続して、DVD オーディオなどの高音質な音声を楽しむことができます。

準備：SPEAKERS A または BI-WIRE を選び、セレクターを "*DVD*" にする。(➡16 ページ)



"*DVD 6CH*" が表示されるまで押したままにする

DVD 6CH

■解除するには、"*DVD*" が表示されるまで押したままにする

お知らせ

●スピーカーの設定（➡ 12 または 14、24 または 25 ページ）は無効になります。DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーで、スピーカーの有無やサイズを設定してください。
● "*DVD 6CH*" にすると、HDMI 入力からの映像信号は出力されません。それ以外の映像ケーブルを接続してください。(➡ 8、9 ページ)

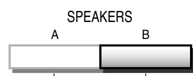
<u>センターフォーカス、マルチリアサラウンド、バスシンセサイザー</u> は、下記の場合は使えません。
●デジタル入力信号が 1 チャンネル（モノラル）、DTS 96/24 、または PCM のサンプリング周波数が 48 kHz を超える場合
●ドルビープロロジック Ⅱx、ドルビープロロジック Ⅱ、DTS NEO:6、SFC、 またはマルチ-ソース リ. マスター を使っている場合
●DVD アナログ 6CH が選ばれている場合
●HDMI 入力からの音声信号が、DVD オーディオのマルチチャンネルの場合

<u>センターフォーカス、マルチリアサラウンド</u> は、下記の場合は使えません。
●入力信号が PCM またはアナログの場合
●2 CH MIX が選ばれている場合

<u>マルチ-ソース リ. マスター</u>は、下記の場合は使えません。
●6.1 CH DECODING ランプが点灯している場合
●DTS 96/24 、または PCM のサンプリング周波数が 48 kHz を超える場合
●ドルビープロロジック Ⅱx、DTS NEO:6、SFC を使っている場合
●HDMI 入力からの音声信号が、DVD オーディオのマルチチャンネルの場合

スピーカー B を使う

フロント B 端子に接続したスピーカーから音声を出力します。



押す

－SPEAKERS－
B

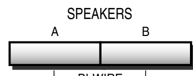
お知らせ

- スピーカー B を選択すると 2 チャンネルのみの再生になります。多チャンネル再生させたい場合は、“B”を消して、“A”のみの選択にしてください。
- A 端子に接続したスピーカーの音を消したい場合は、[A] を押して“A”を消してください。

BI-AMP（バイアンプ）の音声を楽しむ

BI-WIRE（バイワイヤー）接続すると、高周波域と低周波域で別々のアンプを使い、より明瞭で高音質な BI-AMP ステレオサウンドが楽しめます。
BI-AMP は、アナログ入力（DVD 6CH 以外）または 2 チャンネルの PCM 信号の再生時に使用されます。

準備：
- BI-WIRE 接続していることを確かめる。（➡ 7 ページ）
- スピーカーの選択を、“BI-WIRE”にする。（➡16 ページ）





アナログ信号または 2 チャンネルの PCM 信号を再生させると、“BI-AMP”ランプが点灯します。

お知らせ

次の場合は、“BI-AMP”ランプは点灯しません。
- サウンドモードが選択されている場合
- バスシンセサイザーまたはマルチ-ソース リ. マスターを使っている場合

グラフィックイコライザーを使う

グラフィックイコライザーを本機のテープ端子に接続して使用する場合は、テープモニター機能を働かせます。



（セレクターが *TAPE* 以外のとき）
“TAPE MONITOR”が点灯するまで押したままにする

TAPE MONITOR

■解除するには、“TAPE MONITOR”が消えるまで押したままにする

お知らせ

- 入力信号がデジタルの場合、テープモニターは働きません。
- 接続したグラフィックイコライザーの設定により、音がひずむことがあります。

一時的に音を消す（ミューティング）

- 機能が働いている間、表示部に“*MUTING IS ON*”と繰り返し表示（スクロール）されます。



押す

MUTING I

■解除するには、もう一度押す

お知らせ

電源を切ると、ミューティングは解除されます。

「マルチコントロールのメニューと工場出荷時の状態」については裏表紙を参照ください。

1 マルチコントロールモードに入る



押す

2 設定を変更する
（➡ 右記）

3 設定を終える

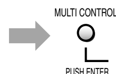


数回押して“*EXIT*”を選び、

INPUT SELECTOR

押す

■ひとつ前のメニューに戻る/キャンセルする



音質の調整

BASS（低音）と *TREBLE*（高音）を調整できます。アナログ入力（DVD 6CH 以外）または 2 チャンネルの PCM 信号でのみ行えます。

① “*TONE*”を選ぶ
回して選び、押して決定



② “*BASS*”または“*TREBLE*”を選ぶ
回して選び、押して決定



BASS、*TREBLE*

③ 調整する
回して選び、押して決定



–10 dB ～ +10 dB

音量バランスの調整

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。
L： 左フロント
R： 右フロント

① “*BALANCE*”を選ぶ
回して選び、押して決定



② 調整する
回して選び、押して決定



- バーの表示はあくまでも目安です。

表示部を暗くする（ディマー）

部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。
LEVEL 1（明）から *LEVEL 3*（暗）の間で調整できます。

① “*DIMMER*”を選ぶ
回して選び、押して決定



② “*ON*”を選ぶ
回して選び、押して決定



OFF（切）、*ON*（入）
■解除するには“*OFF*”を選ぶ

③ 設定を選ぶ
回して選び、押して決定



LEVEL 1、*LEVEL 2*、*LEVEL 3*

スリープタイマー

設定した時間が経過すると自動的に電源が切れます。就寝時などに便利です。
30、60、90、120 分の設定ができます。
- 設定すると表示部に“SLEEP”が表示されます。

① “*SLEEP*”を選ぶ
回して選び、押して決定



② 時間を選ぶ
回して選び、押して決定



OFF、*30*、*60*、*90*、*120*
■解除するには“*OFF*”を選ぶ

■残り時間を知る
一度設定すると手順 ② で残り時間が表示されます。

■設定をやり直す
手順 ② でもう一度時間を設定してください。

DTS FIX モード（正常に再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。）

DTS のデジタル信号のみを処理するように設定します。DTS ソース（音源）を再生しても、信号が自動判別されず DTS のデコーダーランプが点灯しない場合に使います。

入力ソース（音源）を選んだ状態で





“*DTS FIX*”が表示されるまで同時に押したままにする

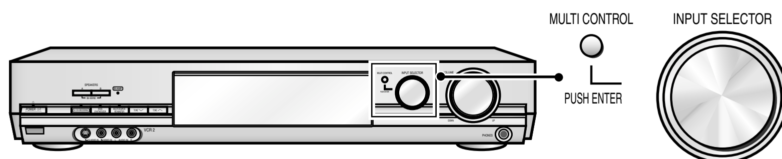
DTS FIX

■解除するには、“*AUTO*”が表示されるまで押したままにする

お知らせ

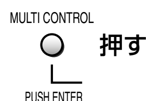
- DTS FIX モードでは、6.1CH DECODING モードは使えません。
- DTS-ES や DTS 96/24 は通常の DTS（サラウンドバックの音声がないなど）で再生されます。
- HDMI 接続では、DTS FIX モードは使えません。
- 電源を切ると DTS FIX モードは解除されます。

音質・音場効果/便利な機能（つづき）





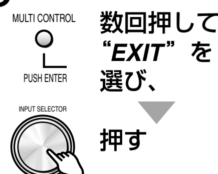
1 マルチコントロールモードに入る



押す

2 設定を変更する
（➡ 右記）

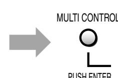
3 設定を終える



数回押して“*EXIT*”を選び、

押す

■ひとつ前のメニューに戻る/キャンセルする



セカンドオーディオ出力の設定

テープ録音（出力）として使用するか、セカンドオーディオ出力として使用するかの設定をします。また、セカンドオーディオ出力させるソース（音源）の選択を行います。

- “*SOURCE*”を選ぶと、セレクターで選択されている入力ソース（音源）を出力します。
- ラジオの音声を出力させたい場合は、“*SOURCE*”を選んでください。

① “*OPTION*”を選ぶ　回して選び、押して決定



② “*SECOND-A*”を選ぶ　回して選び、押して決定



③ “*DISABLE*”または“*ENABLE*”を選ぶ　回して選び、押して決定



DISABLE：カセットデッキに接続して、テープ録音（出力）として使用する場合
ENABLE：ステレオアンプに接続して、セカンドオーディオ出力させる場合

④ “*ENABLE*”を選んだ場合は、出力させるソース（音源）を選ぶ　回して選び、押して決定



SOURCE、*CD*、*TV*、*DVD*、*DVR/VCR1*、*VCR 2*、*TAPE*

二重音声の切り換え

BS デジタル放送の AAC 信号やドルビーデジタルの二重音声を切り換えることができます。（二重音声信号を受信すると表示部に“*DUAL*”と表示されます。）

① “*OPTION*”を選ぶ　回して選び、押して決定



② “*DUAL PRG*”を選ぶ　回して選び、押して決定

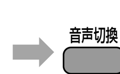


③ 音声を選ぶ　回して選び、押して決定



MAIN：主音声
SUB：副音声
MAIN+SUB：主＋副音声

■二重音声はリモコンでも切り換えることができます。



小音量でも聞きやすくする

ダイナミックレンジの圧縮に対応したドルビーデジタルのみ

音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすい音にします。深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

① “*OPTION*”を選ぶ　回して選び、押して決定



② “*DR COMP*”を選ぶ　回して選び、押して決定



③ 設定を選ぶ　回して選び、押して決定



OFF：通常の再生
STANDARD：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル
MAX：深夜視聴を前提とした最大の圧縮

アッテネーターの切り換え

アナログ入力で再生中、音がひずみ、表示部に“*OVERFLOW*”が点灯した場合は“*ON*（入）”にしてください。

① “*OPTION*”を選ぶ　回して選び、押して決定



② “*A/D ATT*”を選ぶ　回して選び、押して決定



③ “*ON*”を選ぶ　回して選び、押して決定



OFF（切）、*ON*（入）
■解除するには“*OFF*”を選ぶ

RESET（リセット）機能

メモリーしたラジオのチャンネル（➡ 19 ページ）を除くすべての設定を工場出荷時の状態に戻します。
必要に応じて再度設定を行ってください。

- リセットすると、自動的に *TUNER* になります。

① “*OPTION*”を選ぶ　回して選び、押して決定



② “*RESET*”を選ぶ　回して選び、押して決定



③ “*YES*”を選ぶ　回して選び、押して決定

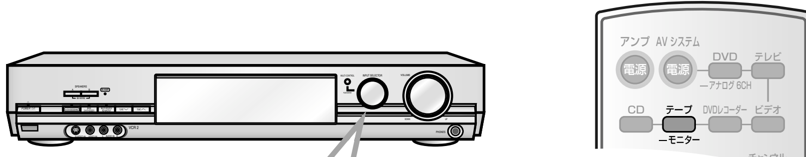


YES、*NO*
■中止するには“*NO*”を選ぶ

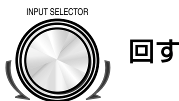
録音・録画

●本機の "DVR/VCR1" 端子に接続した DVD レコーダーまたはビデオデッキに録音・録画できます。(➡ 8 ページ)
●本機の "テープ" 端子に接続したカセットデッキに録音できます。(➡ 11 ページ)
●本機の "デジタル" 光出力端子に接続した MD デッキなどに録音できます。(➡ 11 ページ)
●録音や録画をする再生機器の説明書もご覧ください。
●本機の HDMI 入力から入ってきた音声信号をデジタル録音したいときは、本機の光出力と録音機器を接続してください。ただし、DVD オーディオのマルチチャンネル音声とサンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号は出力されません。そのときは、HDMI 接続した機器と本機、本機と録音機器をアナログ接続してください。

準備： カセットデッキに録音する場合は、セカンドオーディオ出力の設定を "***DISABLE***" にする (➡ 22 ページ)。



1 録音・録画するソース（音源）を選ぶ



回す

2 録音・録画を始める

3 録音・録画するソース（音源）の再生を始める

お知らせ

●"テープ 再生（入力）" 端子の音声は、"テープ 録音（出力）" 端子から出力されません。
●"DVR/VCR1 入力" 端子の音声は、"DVR/VCR1 出力" 端子から出力されません。
●"テープ" 端子から入力した音声を "DVR/VCR1" 端子に接続した録音機器で録音することはできません。
●デジタル信号を "テープ" 端子や "DVR/VCR1" 端子へ出力することはできません。またアナログ信号を "デジタル" 光出力端子へ出力することもできません。
●デジタル録音を禁止したソース（音源）の場合は、アナログ端子に接続してください。
●DVD でアナログ (6CH) 入力を選んだ場合は、フロント 2 CH の音声しか録音できません。
●コピーガードされた DVD などは DVD レコーダーやビデオデッキに録画できません。

カセットデッキに録音している音をモニターする

3（スリー）ヘッドのカセットデッキを本機の "テープ" 端子に接続している場合、録音を続けながら、テープの音声を確認することができます。

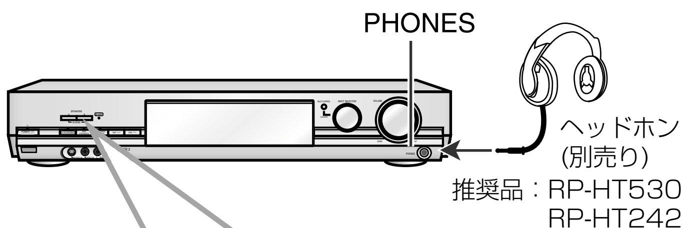


"TAPE MONITOR" が点灯するまで押したままにする

■解除するには、"TAPE MONITOR" が消えるまで押したままにする

ヘッドホンを使う

別売り品の品番は、2004 年 8 月現在のものです。
品番は変更されることがあります。



ヘッドホン
(別売り)
推奨品：RP-HT530
RP-HT242

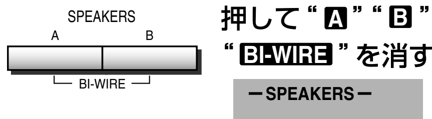
音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。 特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット シンボルマーク

1 すべてのスピーカーを「切」にする



押して "A" "B"
"BI-WIRE" を消す

ーSPEAKERSー

2 音量を下げ、ヘッドホンを接続する

●プラグタイプ：
ステレオ大型 (M6)

3 音量を調整する

お知らせ

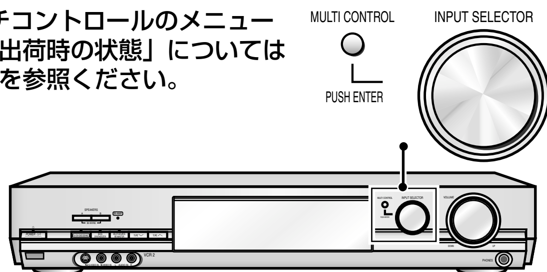
●耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。
●すべてのスピーカーを「切」にすると、2 チャンネルのみの再生になり、多チャンネルソース（音源）は、強制的に 2CH MIX になります。

アンプの設定（応用）

接続したスピーカーの特性や設置位置に合わせた設定が行えます。
スピーカーの説明書もご覧ください。

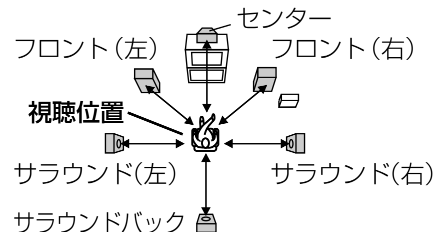
本体の表示部を使って設定する場合

「マルチコントロールのメニューと工場出荷時の状態」については裏表紙を参照ください。

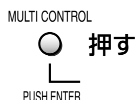


視聴位置と各スピーカーとの距離

“距離の設定”を行う場合は、あらかじめ各スピーカーと視聴位置との距離を測っておいてください。



1 マルチコントロールモードに入る



押す

2 “*SETUP 2* (*ADVANCE SETUP*)”を選ぶ



回して選び、押して決定

3 設定を変更する

(➡ 右記)

スピーカーの有無とサイズの設定

スピーカーにより、再生できる周波数帯域は異なります。特に低音域を不足することなく再生させるためにサイズの設定を行います。

●サイズを“*SMALL*”に設定した場合、低域フィルターの設定を行ってください。(➡ 下記)

下記の場合、自動的に設定されます

- ● *FRONT* を“*SMALL*”にすると *SUB-WFR* は“*YES*”
- ● *SUB-WFR* を“*NO*”にすると、*FRONT* は“*LARGE*”

① “*SPEAKERS*”を選ぶ



回して選び、押して決定

SPEAKERS

② スピーカーを選ぶ



回して選び、押して決定

FRONT

③ 設定を変更する



回して選び、押して決定

SMALL

FRONT（フロント）/ ***CENTER***（センター）/ ***SURROUND***（サラウンド）
LARGE：100 Hz 以下の低音域が十分に再生できるスピーカー
SMALL：LARGE の条件に満たないスピーカー
NONE：センター/サラウンドスピーカーを接続していないとき

SUR BACK（サラウンドバック）/ ***SUB-WFR***（サブウーハー）
YES：接続しているとき　***NO***：接続していないとき

距離の設定

本機は、フロント／センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

●上記「視聴位置と各スピーカーとの距離」を参照ください。

① “*DISTANCE*”を選ぶ



回して選び、押して決定

DISTANCE

② スピーカーを選ぶ



回して選び、押して決定

FRONT

③ 距離を設定する



回して選び、押して決定

3.0 m

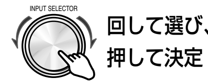
FRONT、CENTER、SURROUND、SUR BACK
●各スピーカー ***1.0 m*** から ***10.0 m*** の間を ***0.1 m*** 間隔で設定できます。

低域フィルターの設定

スピーカーのサイズを“*SMALL*”に設定した場合のみ行ってください。

スピーカーが“*SMALL*”の場合は低音域を十分に再生することができません。再生できる周波数に応じて低域フィルターを設定し、不足している低音域をサブウーハーに出力させます。

① “*FILTER*”を選ぶ



回して選び、押して決定

FILTER

② 低域フィルターの周波数を選ぶ



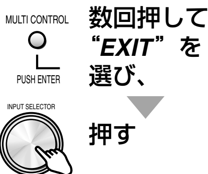
回して選び、押して決定

100

“*SMALL*”にした全てのスピーカーに設定されます。

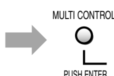
100：100 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる
150：150 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる
200：200 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる

4 設定を終える



数回押して“*EXIT*”を選び、押す

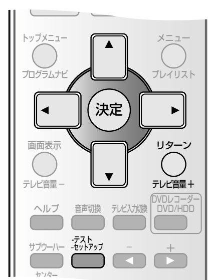
■ひとつ前のメニューに戻る/キャンセルする



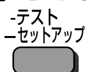
お知らせ

本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

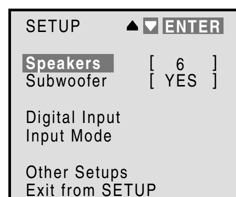
テレビ画面を使って設定する場合



1 **オンスクリーンディスプレイを表示させる**



表示されるまで押したままにする



TV 画面

2 **"Other Setups" を選ぶ**



押して選び、押して決定



3 **設定を変更する**
(➡ 右記)

4 **"Return" を選ぶ**



押して選び、押して決定



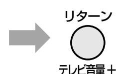
5 **"Exit from SETUP" を選び、設定を終える**



押して選び、押して決定



■ひとつ前のメニューに戻る/キャンセルする



スピーカーの有無とサイズの設定

スピーカーにより、再生できる周波数帯域は異なります。特に低音域を不足することなく再生させるためにサイズの設定を行います。

●サイズを "SMALL" に設定した場合、低域フィルターの設定を行ってください。
(➡ 下記)

下記の場合、自動的に設定されます
● *Front* を "*SMALL*" にすると *Subwoofer* は "*YES*"
● *Subwoofer* を "*NO*" にすると、*Front* は "*LARGE*"

① **"Speaker Size" を選ぶ**



押して選び、押して決定

Speaker Size
Speaker Distance
Filter Frequency

② **スピーカーを選ぶ**



押して選び、押して決定

Front	[SMALL]
Center	[SMALL]
Surround	[SMALL]
Surr Back	[YES]
Subwoofer	[YES]

③ **設定を変更する**



押して選び、押して決定

Front	[SMALL]
Center	[SMALL]
Surround	[SMALL]
Surr Back	[YES]
Subwoofer	[YES]

Front（フロント）/ ***Center***（センター）/ ***Surround***（サラウンド）
LARGE：100 Hz 以下の低音域が十分に再生できるスピーカー
SMALL：LARGE の条件に満たないスピーカー
NONE：センター/サラウンドスピーカーを接続していないとき

Surr Back（サラウンドバック）/ ***Subwoofer***（サブウーハー）
YES：接続しているとき　***NO***：接続していないとき

距離の設定

本機は、フロント／センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

● 24 ページ「視聴位置と各スピーカーとの距離」を参照ください。

① **"Speaker Distance" を選ぶ**



押して選び、押して決定

Speaker Size
Speaker Distance
Filter Frequency

② **スピーカーを選ぶ**



押して選び、押して決定

Front	[3.0] m
Center	[3.0] m
Surround	[1.5] m
Surr Back	[1.5] m

③ **距離を設定する**



押して選び、押して決定

Front	[3.0] m
Center	[3.0] m
Surround	[1.5] m
Surr Back	[1.5] m

Front、Center、Surround、Surr Back
●各スピーカー ***1.0 m*** から ***10.0 m*** の間を ***0.1 m*** 間隔で設定できます。

低域フィルターの設定

スピーカーのサイズを "SMALL" に設定した場合のみ行ってください。

スピーカーが "*SMALL*" の場合は低音域を十分に再生することができません。再生できる周波数に応じて低域フィルターを設定し、不足している低音域をサブウーハーに出力させます。

① **"Filter Frequency" を選ぶ**



押して選び、押して決定

SETUP ▲▼ ENTER
Speaker Size
Speaker Distance
Filter Frequency

② **低域フィルターの周波数を選ぶ**



押して選び、押して決定

FILTER FREQUENCY ◀▶ ENTER
[100] [150] [200]

"*SMALL*" にした全てのスピーカーに設定されます。
100：100 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる
150：150 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる
200：200 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる

お知らせ
●本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。
●本機とテレビを通常のビデオコードで接続していない場合（S2 映像、コンポーネント映像または HDMI 接続のみで接続している場合など）は、オンスクリーンディスプレイは表示されません。本体の表示部を使って設定してください。(➡24 ページ)

リモコンでテレビやDVDなどを操作する

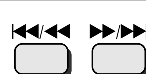
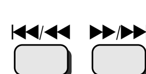
本機の他、**当社製**の DVD プレーヤー、DVD レコーダー、テレビ、ビデオデッキ、CD プレーヤー、およびカセットデッキを本機のリモコンで操作できます。(ただし操作のできない機種もあります。) 各操作についてくわしくは、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

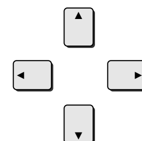
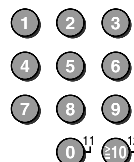
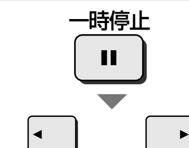
DVD プレーヤーまたは DVD レコーダー

操作する機器に向けて



本機の入力を"DVD"または"DVR/VCR1"に切り換える/リモコンをDVDプレーヤーまたはDVDレコーダー操作モードに切り換える	DVD ーアナログ6CH / DVDレコーダー DVD プレーヤーまたは DVD レコーダー操作の前に必ず行ってください。

DVD プレーヤーまたは DVD レコーダーの電源を入/切する	
トラックやチャプターを飛び越す(スキップ)	
見たい場所を探す(サーチ)	 見たい場所になるまで押したままにする
再生を始める	
トップメニュー(またはプログラムナビ)を表示する	
メニュー(またはプレイリスト)を表示する	
画面表示(GUI)を表示する	
前の画面に戻る	

項目を選ぶ [トップメニュー]、[メニュー]や[画面表示]を押した後に操作してください。	
選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	 例:1 ① 例:10 ≧10 → 1 → 0 ●数字ボタンを押した後、[決定]を押して実行する機種もあります。
一時停止する	
コマ戻し/コマ送りする	
DVD とハードディスクを切り換える (ハードディスクのある DVD レコーダーのみ)	 **切り換わらないときは** DVD レコーダー側が、本機のリモコンの出す信号を認識していない可能性があります。 下記の操作で信号を変更して、もう一度切り換えてみてください。 1. [DVD レコーダー]を押す 2. [決定]を押しながら、[8]または[9]を約 2 秒押したままにする (工場出荷時の設定:[9])
再生を停止する	

本機のリモコンで当社製の DVD レコーダーを操作できないときは

DVD レコーダーと本機のリモコンのリモコンモードが一致していない可能性があります。そのときは、DVD レコーダーのリモコンモードに合わせて、本機のリモコンモードを切り換えてください。


押したまま

▶


「1」、「2」または「3」を
2 秒以上押したままにする

●押した数字ボタンに応じて、「モード 1」、「2」または「3」がリモコン側に設定されます。
●工場出荷時の設定は、「モード 1」です。

操作する機器に向けて



テレビ

本機の入力を“TV”に切り換える/リモコンをテレビ操作モードに切り換える	テレビ テレビ操作の前に必ず行ってください。
テレビの電源を入/切する	AV システム 電源
テレビのテレビ/ビデオ入力を切り換える	テレビ入力切換
テレビの音量を調整する	画面表示 リターン テレビ音量－ テレビ音量＋
チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき） チャンネル ∧ ∨ （直接選ぶとき） 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ダイレクトチューニング 10 0 11 ≧10 12

ビデオデッキ

本機の入力を“DVR/VCR1”に切り換える/リモコンをビデオデッキ操作モードに切り換える	ビデオ ビデオデッキ操作の前に必ず行ってください。
ビデオデッキの電源を入/切する	AV システム 電源
再生を始める	再生 ▶
巻き戻し/早送りをする	⏮/◀◀ ▶▶/⏭
一時停止する	一時停止 ⏸
再生を停止する	停止 ■
チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき） チャンネル ∧ ∨ （直接選ぶとき） 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ダイレクトチューニング 10 0 11 ≧10 12

CD プレーヤー

本機の入力を“CD”に切り換える/リモコンを CD プレーヤー操作モードに切り換える	CD CD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
CD プレーヤーの電源を入/切する	AV システム 電源
再生を始める	再生 ▶
トラックを飛び越す（スキップ）	⏮/◀◀ ▶▶/⏭
一時停止する	一時停止 ⏸
トラックを直接選ぶ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 11 ≧10 12 例：1 1 例：10 ≧10 12 → 1 → 0 11
再生を停止する	停止 ■

カセットデッキ

本機の入力を“TAPE”に切り換える/リモコンをカセットデッキ操作モードに切り換える	テープ －モニター－ カセットデッキ操作の前に必ず行ってください。
カセットデッキの電源を入/切する	AV システム 電源
再生を始める	再生 ▶
巻き戻し/早送りをする	⏮/◀◀ ▶▶/⏭
一時停止する	一時停止 ⏸
再生を停止する	停止 ■

お知らせ

本機のリモコンでは、CD のサーチはできません。

ヘルプメッセージ

リモコン ヘルプ 押す

音が出ないときや、気づかずに誤操作をしたときなどにその原因や処置方法を表示します。
エラー表示やスクロール表示（“***NOT POSSIBLE IN MOVIE MODE***”など）が出た場合にも行ってください。

表示	原因／処置方法
DISABLE SECOND AUDIO OUTPUT USING MULTI CONTROL	セカンドオーディオ出力が“***ENABLE***”のときはテープモニターできません。“***DISABLE***”にしてください。
ENTER CORRECT FREQUENCY	周波数を正確に入力してください。
ENTER THE FREQUENCY WITH THE NUMERIC BUTTONS	ダイレクトチューニングモードです。周波数を入力してください。
PRESS THE MUTING BUTTON ON THE REMOTE CONTROL	ミューティングが働いています。リモコンの［消音］を押して解除してください。
TURN ON SPEAKER	スピーカー[A]、[B]、[BI-WIRE]ともに「切」になっています。接続に合わせて、スピーカー表示を点灯させてください。

表示	原因／処置方法
SELECT SPEAKER A OR BI-WIRE	スピーカーの［B］は選べません。[A］または[BI-WIRE]を選んでください。
SELECT MUSIC MODE	ドルビープロロジック IIx とドルビープロロジック II、DTS NEO:6 の調整は MUSIC のみで行えます。
SELECT DOLBY EX MODE	ドルビーデジタル 5.1 CH のソース（音源）を、ドルビープロロジック IIx の“***MUSIC***”モードで再生しているときは、センターフォーカス、マルチリアサラウンド、バスシンセサイザーは使えません。“***DOLBY EX***”モードにしてください。

表示	原因／処置方法
SELECT STEREO MODE	マルチ-ソース リ. マスターやバスシンセサイザーを使う場合は、DTS NEO:6 は解除してください。
TURN OFF DTS FIX MODE	DTS FIX モードになっています。解除してください。
TURN OFF PCM FIX MODE	PCM FIX モードになっています。解除してください。
TURN RE-MASTER OFF	センターフォーカス、マルチリアサラウンド、バスシンセサイザーを使う場合は、マルチ-ソース リ. マスターと SFC は解除してください。
TURN SFC OFF	（同上）
NORMAL OPERATION	設定は正しく行われています。音が出ない場合はコードの接続などを確認してください。

お手入れ

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

主な仕様

■ アンプ部

実用最大出力（サラウンドモード　各 ch 動作時）	
フロント（L／R）	100 W ＋ 100 W（6 Ω, JEITA）
センター	100 W（6 Ω, JEITA）
サラウンド（L／R）	100 W ＋ 100 W（6 Ω, JEITA）
サラウンド（BACK）	100 W（6 Ω, JEITA）
定格出力（サラウンドモード　各 ch 動作時）	
フロント（L／R）	70 W ＋ 70 W（1 kHz 6 Ω 0.3 %）
センター	70 W（1 kHz 6 Ω 0.3 %）
サラウンド（L／R）	70 W ＋ 70 W（1 kHz 6 Ω 0.3 %）
サラウンド（BACK）	70 W（1 kHz 6 Ω 0.3 %）
実用最大出力（ステレオ時）	100 W ＋ 100 W（6 Ω, JEITA）
定格出力（ステレオ時）	70 W ＋ 70 W（20 Hz ～ 20 kHz 6 Ω 0.09 %）
全高調波ひずみ率	
20 Hz ～ 20 kHz 定格出力	0.09 %（6 Ω）
負荷インピーダンス	
フロント（L／R）	
A または B	6 ～ 16 Ω
A と B	6 ～ 16 Ω
BI-WIRE	6 ～ 16 Ω
センター	6 ～ 16 Ω
サラウンド（L／R）	6 ～ 16 Ω
サラウンド（BACK）	6 ～ 16 Ω
周波数特性	
CD, TV, DVD, DVR/VCR1, VCR 2, TAPE	4 Hz ～ 88 kHz, ±3 dB
DVD 6CH	4 Hz ～ 44 kHz, ±3 dB
入力感度/入力インピーダンス	
CD, TV, DVD/DVD 6CH, DVR/VCR1, VCR 2, TAPE	200 mV/22 kΩ
信号対雑音比（S／N 比）	
CD, DVR, DVD, TV（DIGITAL INPUT）	103 dB
トーンコントロール特性	
低音	50 Hz, +10 ～ −10 dB
高音	20 kHz, +10 ～ −10 dB
定格出力電圧	
テープ出力（TAPE OUT）	200 mV
ビデオデッキ出力（DVR/VCR1 OUT）	200 mV

デジタル入力（光）	2
（同軸）	2
デジタル出力（光）	1

HDMI 入力　（VER. 1.1）	1
HDMI 出力　（VER. 1.0）	1

■ FM チューナー部

受信周波数帯	76.0 ～ 90.0 MHz
実用感度	16.3 dBf（3.6 μV, IHF '58）
全高調波ひずみ率	
MONO	0.3 %
STEREO	0.5 %
ステレオセパレーション	
1 kHz	35 dB
アンテナ端子	75 Ω（不平衡型）

■ AM チューナー部

受信周波数帯	522 ～ 1629 kHz
実用感度	20 μV, 600 μV／m

■ 映像部

出力電圧（1 V 入力時）	1 ±0.1 Vp-p
最大入力電圧	1.5 Vp-p
入出力インピーダンス（アンバランス）	75 Ω

■ 総合

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	240 W
寸法（幅×高さ×奥行き）	430 mm × 83 mm × 376 mm
質量	約 4.5 kg

電源スタンバイ時の消費電力	約 1.6 W

注）
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる 第 10 次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性ー第 3-2 部：限度値ー高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを確認・処置してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	8
共通	機器の再生を始めても音や映像が出ない。または音がおかしい。	● スピーカー表示が消灯している場合は、点灯させてください。 ● 入力ソースを正しく選択してください。 ● テープモニターを解除してください。 ●「ミューティング」を解除してください。 ● 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。 ● スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 ● デジタル入力端子の設定を確認してください。 ● PCM FIX モードまたは DTS FIX モードを解除してください。 ● DVD オーディオディスクの中には、著作権保護のためダウンミックスを禁止しているものがあります。この場合、すべてのスピーカーを接続していない場合や、スピーカー B を選んでいて 2 チャンネルのみの再生にしている場合は、正常に再生できないことがあります。	16 16 21,23 21 16 6～11 12,14 12,14,21 –
共通	音が出なくなった。(“***OVERLOAD***”が約 1 秒間表示される。) 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります。	● スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 ● スピーカーインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ➡ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。(保護回路の動作が解除されます。) (それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。)	6 7 – – –
共通	F 76 が表示され、電源が切れる。	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
共通	表示部が暗い。	● ***DIMMER*** を“***OFF***（切）”にしてください。	21
共通	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	5
HDMI	U70-1-1 が表示される。	● HDMI 接続した機器が、本機の著作権保護に対応していません。	–
HDMI	U70-1-2 が表示される。	● HDMI 接続で、本機が対応していない映像フォーマットの受信をしました。接続した機器の設定を確認してください。	–
HDMI	U70-3 が表示される。	● HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 －接続した機器の電源を一旦切り、再び入れ直してください。 － HDMI ケーブルを抜き差ししてください。 －本機出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	 – 9 –
HDMI	HDMI 接続で、はじめの数秒間の音声が再生されない	● DVD をチャプターから再生すると起こることがあります。以下の方法を行ってください。 － DVD プレーヤーまたは DVD レコーダーのデジタル音声出力の設定を、ビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。(ただし、6.1CH ソースは 5.1CH で再生されます。6.1CH DECODING は使えません。) －さらに、2CH ソースの場合は、***Input Mode*** または ***IN MODE*** の設定を“***PCM FIX***”にしてください。	– 12,14
サウンドモード	センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーから音が聞こえない。	● スピーカーの有無、サブウーハーの有無、またはスピーカーの有無とサイズの設定を確かめてください。 ● サウンドモードを確かめ、適切なモードを選んでください。 ● 2CH MIX を解除してください。	12,14,24,25 16 17
サウンドモード	サラウンドバックスピーカーから音が聞こえない。	● スピーカーの有無、またはスピーカーの有無とサイズの設定で、サラウンドバックスピーカーの有無を確かめてください。 ● [6.1CH DECODING]を押してください。	12,14,24,25 17
サウンドモード	ドルビープロロジック IIx やドルビープロロジック II、DTS NEO:6、SFC が使えない	● DVD アナログ 6CH を解除してください。 ● 48 kHz を超えるサンプリング周波数のときは使用できません。	20 16
サウンドモード	BS デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない	● BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	–
ラジオ	受信できない。 雑音やひずみが多い。	● アンテナの向きや位置を変えてみてください。 ● 音質の調整で、高音(“***TREBLE***”)を絞ってみてください。 ● 本機、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、テレビやビデオデッキから AM ループアンテナを離してください。 ● FM 屋外アンテナに替えてみてください。 ● アンテナと他のコードを遠ざけてください。	– 21 – 10 –

Q & A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本機には接続できません。
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。(➡ 8、12、14 ページ)
DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS のマルチデコーダーランプが点灯しない。	DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリーム出力であることを確かめてください。

Q（質問）	A（回答）
48 kHz を超えるサンプリング周波数の DVD を再生しても音が出ない。	著作権保護の理由などでデジタル接続では音声が出ないディスクがあります。アナログ接続してください。
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、本体上部や側面の放熱孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

保証とアフターサービス （よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書 （別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、AV コントロールアンプの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき

29 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

● 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

● 修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

松下電器産業株式会社および松下グループ関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記のとおり、お取り扱いします。

1. 当社は､お客様の個人情報を､ナショナル パナソニック製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
なお、修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供いたしません。
2. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。
3. お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	AV コントロールアンプ	お買い上げ日	年　月　日
品　番	SA-XR70	故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

ナショナル パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

ナショナル パナソニック
修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）  **0570-087-087**

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。
  呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北海道地区

窓口	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

窓口	所在地	電話番号
青森	青森市第二問屋町3-7-10	☎(017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎(0243)34-1301

首都圏地区

窓口	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎(028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1	☎(027)352-1109
茨城	つくば市花畑2丁目8-1	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-0171

中部地区

窓口	所在地	電話番号
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市西島765	☎(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎(059)255-1380

近畿地区

窓口	所在地	電話番号
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

窓口	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎(083)986-4050

四国地区

窓口	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎(088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎(088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎(089)971-2144

九州地区

窓口	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市長浜町10-1	☎(0997)53-5101

沖縄地区

窓口	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。　0105

さくいん

■マルチコントロールのメニューと工場出荷時の状態（⑱などの数字は参照ページです。）

メイン メニュー	サブメニュー (記載内容は工場出荷時の状態)			
TUNER (FM か AM のときのみ)	TUNING	MANUAL		⑱
	FM MODE	AUTO		⑱
	MEMORY	CH 1		⑲
	AUTO MEM	START		⑲
TONE	BASS	0dB		㉑
	TREBLE	0dB		㉑
BALANCE	L ▽ R			㉑
DIMMER	OFF			㉑
	ON	LEVEL 2		㉑
SLEEP	OFF			㉑
OPTION	SECOND-A	DISABLE		㉒
		ENABLE	SOURCE	㉒
	DUAL PRG	MAIN		㉒
	DR COMP	OFF		㉒

メイン メニュー	サブメニュー (記載内容は工場出荷時の状態)			
OPTION	A/D ATT	OFF		㉒
	B PROOF	MODE A		⑱
	RESET	YES		㉒
SETUP 1	SPEAKERS	SUBW YES	LCR S SB	⑭
		SUBW NO	LCR S SB	⑭
	D-INPUT	TV	OPT 1	⑭
		DVR	OPT 2	⑭
		DVD	COAX 1	⑭
		CD	COAX 2	⑭
	HDMI SEL	DVD		⑭
	IN MODE	TV	AUTO	⑭
		DVR	AUTO	⑭
		DVD	AUTO	⑭
		CD	AUTO	⑭

メイン メニュー	サブメニュー (記載内容は工場出荷時の状態)			
SETUP 2	SPEAKERS	FRONT	SMALL	㉔
		CENTER	SMALL	㉔
		SURROUND	SMALL	㉔
		SUR BACK	YES	㉔
		SUB-WFR	YES	㉔
	DISTANCE	FRONT	3.0 m	㉔
		CENTER	3.0 m	㉔
		SURROUND	1.5 m	㉔
		SUR BACK	1.5 m	㉔
	FILTER	100		㉔
EXIT	●マルチコントロールを終了します。			

愛情点検 長年ご使用の AV コントロールアンプの点検を!

こんな症状はありませんか

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 音が出ないことがある
- 正常に動作しないことがある
- 商品に破損した部分がある
- その他の異常や故障がある

▶ **このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。**

便利メモ （おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	☎（　　）　―	品番	SA-XR70
お客様ご相談窓口	☎（　　）　―	お買い上げ日	年　月　日

松下電器産業株式会社　ネットワーク事業グループ

〒571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

© 2004 Matsushita Electric Industrial Co., Ltd. （松下電器産業株式会社）All Rights Reserved.

RQT7736-2S
H0704ZZ2025